

授 業 要 綱

2020 年度（令和 2 年度）

理学療法学科 夜間部

専門学校 社会医学技術学院

授 業 要 綱

2020 年度（令和 2 年度）

理学療法学科 夜間部

専門学校 社会医学技術学院

理学療法学科 夜間部

2020 年度（令和 2 年度）

目次

教育理念・教育目標・3つのポリシー

教育理念・教育目標	・・・	1
・3つのポリシー		

1 年 生

《基礎分野》

基礎力養成講座	・・・	2
情報社会と情報リテラシー	・・・	3
バイオメカニクス	・・・	4
医療コミュニケーション論	・・・	5

《専門基礎分野》

解剖学Ⅰa	・・・	6-7
解剖学Ⅰb	・・・	8-9
解剖学Ⅱ	・・・	10-11
生理学Ⅰa	・・・	12
生理学Ⅰb	・・・	13
生理学Ⅱa	・・・	14
生理学Ⅱb	・・・	15
人間発達学	・・・	16
臨床心理学	・・・	17
リハビリテーション概論	・・・	18

《専門分野》

理学療法概論	・・・	19
理学療法演習Ⅰ	・・・	20
フィジカルアセスメント	・・・	21
生活環境支援理学療法学	・・・	22
臨床見学実習	・・・	23

2 年 生

《専門基礎分野》

運動学Ⅱ	・・・	24
運動学演習	・・・	25
神経内科学	・・・	26
整形外科	・・・	27
臨床医学(内科・小児・老年)	・・・	28-30
精神医学	・・・	31
リハビリテーション医学	・・・	32

《専門分野》

理学療法評価学Ⅰ	・・・	33
理学療法評価学Ⅱ	・・・	34
運動療法学概論	・・・	35
運動器障害理学療法学	・・・	36
日常生活活動論	・・・	37

3 年 生

《専門分野》

臨床運動学	・・・	38
理学療法評価学演習	・・・	39
脳血管障害理学療法学	・・・	40
発達障害理学療法学	・・・	41
神経障害理学療法学	・・・	42
物理療法学	・・・	43
日常生活活動論演習	・・・	44
義肢装具学	・・・	45
義肢装具学演習	・・・	46
内部障害理学療法学	・・・	47
運動療法学技術論	・・・	48
生活環境論	・・・	49
臨床実習Ⅰ	・・・	50
臨床実習Ⅱ	・・・	51

4 年 生

《基礎分野》

行動科学	・ ・ ・	52
統計学	・ ・ ・	53

《専門分野》

理学療法概論Ⅱ	・ ・ ・	54
理学療法研究法演習	・ ・ ・	55
運動療法学特論	・ ・ ・	56
社会福祉学	・ ・ ・	57
地域理学療法論	・ ・ ・	58
地域福祉論	・ ・ ・	59
臨床実習Ⅲ-A	・ ・ ・	60
臨床実習Ⅲ-B	・ ・ ・	61

関連科目

基礎となる科目	・ ・ ・	62～65
---------	-------	-------

・ 基礎とした科目

《教育理念》

本校は、人により添い、生きることを支えるために、専門的知識及び技術を習得するとともに、深い人間愛と高い人間性を涵養し、社会に貢献する理学療法士・作業療法士を育てます。

《教育目標》

1. 人の思いや痛み、苦しみや喜びを共感できる豊かな人間性の育成
2. 多職種と連携して自己の役割を果たせるコミュニケーション能力の育成
3. 人が抱える問題を論理的・創造的に解決できる思考力の育成
4. 科学的根拠に基づいた確かな専門知識・技術の育成
5. 専門職として生涯にわたり学習し、研鑽し続ける意欲の育成

《3つのポリシー》

・アドミッションポリシー（このような人をもとめています）

自分の経験を活かし理学療法士・作業療法士として働く意志を表明し、以下を満たす人

- 1) 情熱を持ち、困難な状況にある人々を積極的に支援しようとする人
- 2) 肯定的な人間観を持ち、人格を尊重できる人
- 3) 論理的な思考ができ学習に熱意がある人

・カリキュラムポリシー（このような教育を行います）

教育目標を達成するために、成長する基礎力ー深く考える力・共感する力・科学する力ーを育む教育

- 1) 個々人の能力に適した方法で提供する、学生中心の教育
- 2) 医療や地域、また対象となる人の生活を考慮した幅広いリハビリテーション分野の教育
- 3) 他（多）職種や、対象となる人に関わる人々と連携するために必要な教育

★ ディプロマポリシー（このような人材を育てます） ★

リハビリテーションの理念のもと、対象となる人は生活者であることを理解し適切なサービスを提供できる人材

- 1) 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人…DP1
- 2) 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人…DP2
- 3) 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人…DP3
- 4) 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人…DP4

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

初年次教育の中核であり、ディプロマポリシーで掲げる療法士養成へ円滑な導入を図るために、基礎力形成のためのスタディスキルとビジネスマナーを習得する。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』。文光堂。2012年。

《目標行動(SBO)》

1. スタディスキル（ライティング・リーディング・プレゼンテーション・グループワーク）を習得できる。
2. 自分に合った学習方法を見つけ、学習計画を立てることができる。
3. 学内リソースを活用できる。
4. ビジネスマナー（挨拶の作法・メールの書き方・電話のかけ方・手紙の書き方・報告連絡相談）を習得できる。

《学生の留意点》

勉強資材の使い方や勉強方法、マナーなど、専門職を目指すにあたり必要な基礎的スキルを身につけていく必要がある。確かなスキルを積み上げていくために、当科目で学んだ方法を意識的に実践していくようにしてください。

《成績評価の方法》

課題（ワークシート・レポート）：50%
 ビジネスマナー他者評価：20%
 プレゼンテーション：30%
 ルーブリックを用いて評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験から基礎的スキルの習得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	基礎力について
2	授業について	授業の受け方（授業スタイル別など）、ノートを取り方・使い方、学習計画の立て方
3	学習方法について	学習方法（GRIT・ラーニングスタイルインベントリー）、学習の深め方（記憶、関連付け）
4	PCリテラシー	Word, Excelの基本的な使い方
5	学内リソース探検	学内文献の把握
6	文章読解	文章読解
7	文章読解と表現	事実と意見
8	文章の書き方	科学的文章の構成/レポート作成
9	図やグラフの読み取り方	図やグラフの読み取り方、理学療法における計算式の応用
10	模型を扱う	映像資料を見ながら模型を扱う、模型を用いて同定する
11	臓器の構造的特徴の捉え方	臓器の簡易図を描く
12	ビジネスマナー	ビジネスマナー（挨拶の作法・電話のかけ方・報告連絡相談・服装）
13	〃	ビジネスマナー（メール・手紙の書き方、Faxの送り方）
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション（説得力のあるプレゼンテーションの方法）
15	〃	プレゼンテーション

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー				
担当者氏名	和島 英明、美崎 定也、佐々木 亮平				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

私たちの生活を取り巻く情報社会の現状を理解し、正しい情報収集方法、情報の吟味、情報セキュリティ、また情報を取り扱うスキルとマナーなどについて理解する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

- 1) 「情報」の今日的意義を理解できる
- 2) 情報社会(SNS, 情報マナー, セキュリティ等)の現状と正しい取り扱い方法を理解できる
- 3) 情報収集スキルとともにパワポでまとめることができる
- 4) 「統計」の基本を理解できる

《学生の留意点》

本科目の内容を十分理解し、日常の情報の正しい取り扱いに活かしてほしい

《成績評価の方法》

筆記試験(80%), 発表(20%)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士, 理学療法士としての実務経験を, 情報リテラシーという観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	情報力とは	(村上)
2	数字を読む力～数字に騙されないために～	(村上)
3	今どきのIT①	AI, IoT, RPA等について (村上)
4	今どきのIT②	SNS, 情報マナー, セキュリティ等について (村上)
5	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集, フレームワーク (村上)
6	思考力	思考法の種類と実践 (村上)
7	パワーポイント	パワーポイントの使い方, 発表に向けたグループ課題(7テーマ) (佐々木)
8	グループ学習	グループ課題の各テーマについて調べ学習 (佐々木)
9	統計とは	統計の必要性, 考え方 (美崎)
10	グループ発表	グループ課題の各テーマについて発表 (和島)
11	臨床と統計	EBPTや研究における統計の活用, 論文の読み方 (美崎)
12	基本統計量	(美崎)
13	データの視覚的表示	ヒストグラム, 棒グラフ, 散布図, など (美崎)
14	データと分布	母集団, 標本, 正規分布, など (美崎)
15	まとめ	(佐々木)

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	バイオメカニクス				
担当者氏名	小島 肇				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法を修得するために、基本的な身体運動を力学から理解する。

《テキスト》

山本澄子他著：『基礎バイオメカニクス 第2版』。医歯薬出版 2015年。中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』。医歯薬出版。2012年。

《参考図書》

小野文久著：『初歩の物理』。裳華房 2008年
勝平純司他著：『介助にいかすバイオメカニクス』。医学書院 2011年。

《目標行動(SBO)》

1. 「運動の法則」を説明できる
2. 「生体におけるテコ」を理解できる
3. 「重心」を求めることができる
4. 「床反力」を説明できる
5. 「関節モーメント」を理解できる
6. 「立ち上がり」を力学から説明できる
7. 「歩行」を力学から説明できる

《学生の留意点》

中・高校の知識から「運動学」への展開を図る科目です。日常生活のなかの「物体の運動」から「身体運動」の理解へと発展させます。身近な物体やヒトの「動き」を注意深く観察する習慣を身につけましょう。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概要	オリエンテーション、バイオメカニクスとは、身体運動と力学
2	導入	時間と空間、運動の観測、運動学的分析
3	運動の法則①	力のベクトル、「慣性の法則」
4	運動の法則②	「運動の法則」、「作用反作用の法則」
5	生体におけるテコ①	生体におけるテコ①
6	生体におけるテコ②	生体におけるテコ②
7	重心の求め方①	姿勢と重心
8	重心の求め方②	実験 重心の測定
9	外力	床反力、床反力作用点
10	内力	関節モーメント
11	バイオメカニクスの応用①	「立ち上がり」
12	バイオメカニクスの応用②	「立ち上がり」
13	バイオメカニクスの応用③	「歩行」
14	バイオメカニクスの応用④	実験 「歩行」
15	まとめ	まとめ

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論				
担当者氏名	沼尾 拓、林 佑樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

患者家族と適切なコミュニケーションを図るために、コミュニケーションの本質を学び、基本的な人間関係のあり方、関係構築の方法を習得する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

山口美和：『PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド』第2版、医学書院、2016年。

《目標行動(SBO)》

1. 「コミュニケーション」とは何か、説明できる
2. 自己表現ができる
3. 他者が何を考えているのか「考え」を推察し、まとめることができる
4. 患者/家族を想定した基本的な人間関係を作ることができる
5. 「傾聴」、「共感」、「承認」ができる

《学生の留意点》

人と関わるうえでコミュニケーションは重要な要素です。医療人として身につけておきたい基本的なコミュニケーションの知識・技術を演習やグループワークを通して学びます。実際の現場を想定して、積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

インタビューのまとめ : 60%
医療面接についてのレポート : 40%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、理学療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	医療者になるための準備、コミュニケーションとは何か
2	自己分析1	自分を知る
3	自己分析2	自律（感情管理、自己実現）
4	コミュニケーションの基本	傾聴・波長合わせ・オープンクエスチョン・クローズドクエスチョン
5	コミュニケーションのテクニック	ミラーリング・ペーシング・オウム返し・共感について
6	インタビュー1	思いやりとは何か
7	インタビュー2	10年後のビジョン
8	グループワーク	ブレインストーミング・KJ法
9	ディベート1	一般理論的テーマ
10	ディベート2	倫理的テーマ
11	医療面接1	医療面接・面接者の基本的態度類型
12	医療面接2	物語と対話に基づく医療
13	医療面接3	インフォームドコンセント
14	医療面接4	模擬患者への医療面接、検査オリエンテーション
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	秋元 義弘、林 佑樹、河野 崇				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節韧带学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』，文光堂，2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』，廣川書店，2013〔準教科書扱い〕

横地千仞：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』，医学書院，2013

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造，発生と成長について説明できる
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる
3. 筋の分類と作用，補助装置，上肢の筋について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	解剖学総論	解剖学の概要，解剖学用語
2	〃	解剖学の概要，解剖学用語
3	骨学総論	骨の種類と構造，骨の発生と成長
4	〃	骨の種類と構造，骨の発生と成長
5	骨学各論	体幹の骨格（脊柱）
6	〃	体幹の骨格（脊柱）
7	〃	体幹の骨格（胸郭）
8	〃	体幹の骨格（胸郭）
9	〃	上肢の骨格
10	〃	上肢の骨格
11	〃	下肢の骨格
12	〃	下肢の骨格
13	〃	頭蓋の骨格
14	〃	頭蓋の骨格
15	復習	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	秋元 義弘、河野 崇				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靱帯学、筋学について学ぶ

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』，文光堂，2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』，廣川書店，2013〔準教科書扱い〕
横地千代：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』，医学書院，2013

《目標行動(SBO)》

1. 全身の骨の種類と構造，発生と成長について説明できる
2. 全身の関節の構造と種類について説明できる
3. 筋の分類と作用，補助装置，上肢の筋について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	復習	復習
2	関節靱帯学総論	関節の一般構造と種類
3	〃	関節の一般構造と種類
4	関節靱帯学各論	体幹，上肢の関節
5	〃	体幹，上肢の関節
6	〃	下肢の関節
7	〃	下肢の関節
8	筋学総論	筋の分類と作用，筋の補助装置
9	〃	筋の分類と作用，筋の補助装置
10	筋学各論	頭頸部の筋
11	筋学各論	頭頸部の筋
12	〃	上肢帯の筋
13	〃	上肢帯の筋
14	〃	上肢の筋
15	〃	上肢の筋

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』、文光堂、2012年。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。〔準教科書扱い〕

横地千代：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』、医学書院、2013年。

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2015年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	筋学各論	体幹筋
2	〃	体幹筋
3	〃	下肢帯の筋
4	〃	下肢帯の筋
5	〃	下肢の筋
6	〃	下肢の筋
7	内臓学総論	内臓の一般的構造と体内における配置
8	〃	内臓の一般的構造と体内における配置
9	内臓学各論	消化器系
10	〃	消化器系
11	〃	消化器付属腺
12	〃	消化器付属腺
13	〃	循環器系（心臓と血管）
14	〃	循環器系（心臓と血管）
15	〃	循環器系（リンパ系）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』。文光堂。2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』。廣川書店。2013〔準教科書扱い〕
横地千代：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』。医学書院。2013
野村嶺：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』。医学書院。2015

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失することのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内臓学各論	循環器系（リンパ系）
2	〃	呼吸器系
3	〃	呼吸器系
4	〃	内分泌系
5	〃	内分泌系
6	〃	泌尿器系、男性生殖器系
7	〃	泌尿器系、男性生殖器系
8	〃	女性生殖器系
9	〃	女性生殖器系
10	〃	発生学
11	〃	発生学
12	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
13	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
14	〃	感覚器系（眼、耳）
15	〃	感覚器系（眼、耳）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱ				
担当者氏名	宮東 昭彦				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるとともに、より発展的な内容を持つ他科目の理解を助ける基礎的な概念を整理するため、神経系、脈管系について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男 訳：『解剖学アトラス』原著第10版、文光堂、2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013。

野村 嶺 編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学』、医学書院、2020。

《目標行動(SBO)》

1. 中枢神経系の基本構造と部位名を、主に断面像を用いて、機能と関連付けて説明できる
2. 中枢神経系の伝導路について説明できる
3. 脳神経と脊髄神経を列挙、走行経路と神経支配を説明できる

《学生の留意点》

新しい概念や用語が多いため、講義ごとの復習が重要

質問は電子メール [akudo@ks.kyorin-u.ac.jp] にて随時受け付ける。

《成績評価の方法》

期末筆記試験 90%、復習テスト 10%。復習テストは、前週に予告の上、講義時間中に複数回実施する。再試験は、期末筆記試験の成績不振者を対象として行う。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外来講師による神経系、脈管系を講義形式で実施する。実務経験のある理学療法士（坂田）により、神経系、脈管系の知識を整理する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経系序説（宮東・坂田・河野）	神経系についての基礎知識 神経系とは、中枢神経と末梢神経、神経細胞と神経線維
2	神経系総論（宮東・坂田・河野）	シナプスとニューロン系、脳の発生と構成、中枢神経系の基本構造
3	中枢神経系（宮東）	神経組織とグリア細胞、灰白質と白質、神経核と線維路について
4	中枢神経系（宮東）	脳室系・髄膜と脳脊髄液系、脳の方向と断面
5	中枢神経系（宮東）	大脳の構造、大脳皮質（新皮質、古皮質、原皮質）
6	中枢神経系（宮東）	大脳新皮質の機能局在：知覚領・運動領・連合中枢
7	中枢神経系（宮東）	大脳基底核と髄質 線条体と内包
8	中枢神経系（宮東）	間脳の構造、松果体、視床と視床核、視床下部、下垂体
9	中枢神経系（宮東）	脳幹（中脳、橋、延髄）の構造と伝導路、網様体
10	中枢神経系、伝導路（宮東）	脊髄の構造と機能局在、伝導路
11	中枢神経系、伝導路（宮東）	小脳 構造、機能による区分、伝導路
12	中枢神経系、伝導路（宮東）	運動性の伝導路：錐体路ほかの脊髄下行路と運動を調節する伝導路
13	中枢神経系、伝導路（宮東）	感覚性の伝導路：体性感覚の種類と伝導路
14	末梢神経系（宮東）	脳幹と脳神経、脳神経1～2（嗅神経、視神経）
15	末梢神経系（宮東）	脳神経3, 4, 6（眼筋を支配する脳神経）、視覚反射

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学Ⅱ				
担当者氏名	宮東 昭彦				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるとともに、より発展的な内容を持つ他科目の理解を助ける基礎的な概念を整理するため、神経系、脈管系について学ぶ

《目標行動(SBO)》

3. 脳神経と脊髄神経を列挙、走行経路と神経支配を説明できる
4. 心臓の基本構造と位置、機能の概要について説明できる
5. 全身の動脈と静脈の走行と血液供給、リンパ管の走行の概要を説明できる
6. 作業療法に必要な神経系、脈管系の知識を説明できる

《成績評価の方法》

期末筆記試験 90%、復習テスト 10%。復習テストは、前週に予告の上、講義時間中に複数回実施する。再試験は、期末筆記試験の成績不振者を対象として行う。

《テキスト》

平田幸男 訳：『解剖学アトラス』原著第10版。文光堂。2012

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』。廣川書店。2013。

野村 嶺 編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学』。医学書院。2020。

《学生の留意点》

新しい概念や用語が非常に多いので、講義ごとの復習が重要

質問は電子メール [akudo@ks.kyorin-u.ac.jp] にて随時受け付ける。

《実務経験のある教員による科目》

・解剖学教室の外来講師による神経系、脈管系を講義形式で実施する。実務経験のある作業療法士（河野）により、神経系、脈管系の知識を整理する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	末梢神経系（宮東）	脳神経5, 7（顔面の感覚と運動の制御）
2	末梢神経系（宮東）	脳神経8, 9（内耳神経、舌咽神経）
3	末梢神経系（宮東）	脳神経10～12（迷走神経、副神経、舌下神経）
4	末梢神経系（宮東）	脊髄と脊髄神経、デルマトーム、脊髄神経後枝、頭神経叢
5	末梢神経系（宮東）	腕神経叢と上肢の神経
6	末梢神経系（宮東）	腰神経叢、仙骨神経叢と下肢の神経
7	末梢神経系（宮東）	自律神経系 交感神経と副交感神経
8	脈管系総論（宮東）	循環器系概論 血液循環とリンパ管
9	脈管系（宮東）	心臓 心筋、弁、血管、刺激伝導系、心臓の位置
10	脈管系（宮東）	脈管系総論 血管の構造、動脈、静脈、毛細血管
11	脈管系（宮東）	大動脈、大静脈とその直接枝
12	脈管系（宮東）	局所解剖学からみた血管 頭頸部、上肢
13	脈管系（宮東）	局所解剖学からみた血管 体幹、下肢
14	脈管系（宮東・坂田・河野）	脳の血管系、腹腔内臓と門脈系、胎生期の血液循環
15	脈管系（宮東・坂田・河野）	リンパ系の概要、理学療法に必要な解剖学（聴診や血管・神経触察など）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a				
担当者氏名	渡辺 圭一、山形 哲行				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）及び末梢神経と効果器（筋）の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』。文光堂。2017年

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる
3. 身体を動かす際の中樞神経の働き（生理）について説明できる
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について関係づけることができる

《成績評価の方法》

期末試験（筆記70%）、課題（実習レポート30%）

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師、理学療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論	生理学概論，神経生理学概論
2	細胞機能の基礎	細胞の環境，構造と構造機能相関，細胞膜を通過する物質移動
3	細胞機能の基礎②	機能調節のメカニズム，遅い時間経過の調節
4	活動電位，イオンチャネル	刺激と興奮，膜電位，興奮発生およびイオンチャネル，興奮伝導
5	骨格筋①	骨格筋の種類と構造，筋線維の構造，筋収縮
6	骨格筋②	興奮収縮連関，筋収縮力学，筋のエネルギー発生，運動と生理学，演習（筋電図について）
7	シナプス伝達①	神経筋伝達について，演習（神経伝導速度），中枢神経系のシナプス伝達について①
8	シナプス伝達②	中枢神経系のシナプス伝達について②，神経伝達物質について（種類と働き）
9	シナプス伝達③	中枢のシナプス伝達，シナプス伝達の可塑性、
10	自律神経系①	自律神経系との構成と作用，自律神経系の受容体①
11	自律神経系②	自律神経系の受容体②
12	運動系①	脊髄について，脳幹について
13	運動系②	小脳について，大脳基底核について①
14	運動系③	大脳基底核について②，大脳皮質について①
15	運動系④	大脳皮質について②

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I b				
担当者氏名	渡辺 圭一、山形 哲行				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』。文光堂。2017年

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家《実務経験のある教員による科目》

《成績評価の方法》

期末試験(筆記70%)、課題(実習レポート30%)

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	感覚生理学総論	感覚系神経システムの理解
2	体性感覚①	感覚の強度、体性感覚と受容器、体性感覚の伝導路・中継核①
3	体性感覚②	体性感覚の伝導路・中継核②、大脳皮質の体性感覚野、痛覚、痒み
4	味覚、嗅覚	味覚、(味覚系、満腹、摂食中枢、嚥下) 嗅覚
5	聴覚	音の性質と聴力、伝音機構、内耳の音受容、聴覚の中枢
6	前庭感覚	前庭器官の構造と機能、前庭系の神経回路
7	視覚①	眼球の光学系、網膜の光受容、視覚の中枢神経機序
8	視覚②	感覚としての視覚、眼球運動、演習
9	感覚器	感覚器(1～8回)のまとめ
10	脳の統合機能①	大脳皮質の構造と機能
11	脳の統合機能②	大脳辺縁系と視床下部
12	脳の統合機能③	脳の情動、行動を調節する伝達物質、脳波①
13	脳の統合機能④	脳波②、演習(脳波について)、覚醒と睡眠
14	脳の統合機能⑤	学習と記憶
15	脳の統合機能⑥	脳の統合機能(10～14回)のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱa				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人の各種臓器の機能、役割について学ぶ。

《テキスト》

佐藤昭夫他：『人体の構造と機能』，医歯薬出版，2015年

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 体液，血液の役割とその機序を説明できる
2. 心臓，循環，呼吸の役割とその機序を説明できる
3. 排泄，代謝，体温の役割とその機序を説明できる
4. 消化，吸収，内分泌の役割とその機序を説明できる

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について，生理学的知識で精査してみましょう．臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます．

《成績評価の方法》

筆記試験（100％）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床検査技師が担当し，その実務経験を活かした内容である．

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	生命現象の本態，ホメオスタシス
2	体液	水分の生理機能，体液の役割
3	〃	体液の組成，ミネラルの働き，カルシウムの吸収と代謝
4	〃	体液量の調節，脱水，浮腫
5	血液	血液の生理作用，血液型，ABO式，Rh因子
6	〃	赤血球，ヘモグロビン，赤血球の新生と破壊
7	〃	白血球，血小板，血漿の作用
8	〃	血液凝固，輸血，交叉試験
9	心臓	心臓の機能，心拍数，拍出量 7月下旬(土)に生理学実習の予定
10	〃	心筋細胞の膜電位，心筋収縮の特徴
11	〃	心臓の律動的機能，スタニウス結紮
12	〃	心臓の神経支配，心臓の仕事と効率
13	〃	心電図理論，心音図
14	循環	血流のレオロジー，特殊領域の循環
15	〃	血圧測定，体位変換，重力の影響

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学Ⅱb				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人の各種臓器の機能、役割について学ぶ。

《テキスト》

佐藤昭夫他：『人体の構造と機能』。医歯薬出版。2015

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 体液、血液の役割とその機序を説明できる。
2. 心臓、循環、呼吸の役割とその機序を説明できる。
3. 排泄、代謝、体温の役割とその機序を説明できる。
4. 消化、吸収、内分泌の役割とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。

《成績評価の方法》

筆記試験（100%）

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	呼吸	呼吸運動、排気量分画、換気量
2	〃	ガス交換、ガス分析、O ₂ ・CO ₂ の運搬
3	〃	呼吸運動の調節、呼吸中枢
4	〃	肺のコンプライアンス、酸・アルカリ平衡
5	排泄	腎臓の機能、腎臓の構造
6	〃	尿の生成、尿の組成、腎単位
7	〃	腎クリアランス、腎血漿流量、糸球体濾過量
8	代謝	ATPの機能、TCA回路、基礎代謝率
9	体温	生理的体温変動の機序、体温調節中枢
10	消化	口腔内消化、咀嚼・嚥下、唾液による消化
11	〃	胃内消化、胃液の分泌調節、HClの分泌機序
12	呼吸	小腸内消化吸収、膵液の分泌、胆汁の分泌
13	〃	大腸内消化吸収、大腸の運動、排便反射
14	内分泌	ホルモンの作用機序、ホルモンの分泌調整
15	〃	内分泌器官、血糖値の調節、ストレスに対する反応

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	人間発達学				
担当者氏名	松本 実祐				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な領域ごとの各発達段階における特徴を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布します。

《参考図書》

授業の中で資料を配布します。

《目標行動(SBO)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分け説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

積極的に授業に参加してください。

《成績評価の方法》

期末試験 80%, 課題 20%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション, 生涯発達	オリエンテーション, 生涯発達
2	発達課題	発達課題
3	運動の発達	運動の発達
4	言語・感情	言語・感情
5	知覚・記憶	知覚・記憶
6	学習	学習
7	認知 ピアジェの認知発達理論	認知 ピアジェの認知発達理論
8	発達障害①	発達障害①
9	発達障害②	発達障害②
10	発達を見立てる	発達を見立てる
11	段階理論	フロイトの心理学的発達段階・マズローの欲求階層説・エリクソンの心理社会的発達段階理論
12	乳幼児期	乳幼児期
13	児童・青年期	児童・青年期
14	壮年・中年期	壮年・中年期
15	老年期	老年期

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	杉村 夕				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる
2. 代表的な心理検査の種類を列挙、その特徴と内容について説明し、実施できる
3. 代表的な心理療法について列挙し、その特徴と内容について説明できる

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。積極的な授業参加を期待します。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方
2	アセスメント	心理アセスメント面接法、行動観察法
3	心理検査法①	性格検査（質問紙法）
4	心理検査法②	性格検査（投影法）
5	心理検査法③	性格検査（作業検査法）
6	心理検査法④	知能検査（ウェクスラー式、ビネー式）
7	心理療法①	概論
8	心理療法②	精神分析療法
9	心理療法③	クライエント中心療法
10	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	心理療法⑤	自律訓練法
12	心理療法⑥	その他の心理療法
13	障害受容	障害者・高齢者の心理障害の受容、その他
14	ストレス	ストレスマネジメント
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論				
担当者氏名	林 佑樹、山田 千鶴子、小島 肇、福井 健太郎、中村 伴子、鶴見 隆正、関 勝、川股 典子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。 ○ DP2- に育つためのリハビリテーション専門職として治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

利用者の充実した生活を創造するセラピストとして、多職種と連携できるようになるために必要となる基礎的な知識と考え方を学ぶ。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる
2. リハビリテーションチームにおけるPTの役割を説明できる
3. 利用者の生活の質向上のために何が必要か具体的に考えられる
4. 多職種と連携するために必要な行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験 50%

課題（レポート・ミニツッペーパー・自己評価） 50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	リハビリテーションの歴史と理念	定義・対称・医療と介護の区分 〔関 勝〕
2	リハビリテーションチーム	専門職の役割とチームアプローチ 〔関 勝〕
3	医学的リハビリテーション I	リハビリテーションにおける評価とその意義 〔関 勝〕
4	医学的リハビリテーション II	機能予後と短期・長期ゴール設定 〔関 勝〕
5	医学的リハビリテーション III	病期別リハビリテーションと治療の基本概念 〔関 勝〕
6	地域リハビリテーション	医療と福祉の連携など 〔関 勝〕
7	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは 〔山田千鶴子〕
8	利用者中心のリハビリテーション I	利用者の生活を考える 障害体験 1 〔林 佑樹〕
9	利用者中心のリハビリテーション 2	利用者の生活を考える 障害体験 2 〔林 佑樹〕
10	利用者中心のリハビリテーション 3	インフォームドコンセントとハラスメント 〔小島 肇〕
11	利用者中心のリハビリテーション 4	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討 〔山田千鶴子〕
12	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士の役割と責任 〔山田千鶴子〕
13	ケーススタディ1	症例で考えるPT, OTの役割 〔山田・中村伴子〕
14	ケーススタディ2	多職種連携の実際 〔山田・川股他〕
15	セラピストの役割	利用者中心のリハビリテーションとは 〔鶴見隆正〕

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論				
担当者氏名	中山 雅和				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ DP1- となるために本科目では他者の意見に傾聴できる力を身につける。 ○ DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 ○ DP2- に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

望ましい理学療法士像を探究するために、理学療法の概要や評価・治療という一連の流れを理解し、医療従事者として必要な知識および職業倫理を身につける

《テキスト》

講義（グループワーク含む）

《参考図書》

必要に応じて授業中にプリントを配布する

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法とは何か、その概要を説明することができる
2. 4年間の養成課程における学習の概要を理解し、自分が目指す理学療法士像を言葉で表現できる
3. 医療の中での理学療法士の役割を理解し、説明することができる
4. 理学療法士としてふさわしい態度を述べるができる

《学生の留意点》

理学療法とはいかなる専門職なのか、これから3年間にわたる学習が何につながっていくのかを理学療法に関わる題材を通して考えてもらう時間となります。
また、いくつかの学習方法を提示しますので積極的な参加を期待します。

《成績評価の方法》

筆記試験100%（筆記試験の内容には、グループワークの内容も含まれます）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション
2	医療・福祉現場について	人間関係構築 専門職種について
3	理学療法と社医学の歴史	歴史的背景から学ぶこと
4	理学療法士の養成	カリキュラムについて
5	理学療法士に必要な能力	コミュニケーション能力 問題解決能力
6	理学療法士の役割とは	望まれる姿 期待される役割
7	医療従事者としての倫理	説明能力 承認確認 ハラスメント
8	医療におけるリスク管理	医療事故の要因
9	理学療法の流れ①	情報収集と評価、他職種連携
10	理学療法の流れ②	運動療法、物理療法、義肢装具療法、ADL
11	理学療法士が扱う機器	検査機器 治療機器 補助機器
12	理学療法士が関わる分野①	整形外科系運動器疾患
13	理学療法士が関わる分野②	脳神経、神経内科系疾患
14	理学療法士が関わる分野③	地域での関わり がん・終末期
15	臨床見学オリエンテーション	医療現場での学び方

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習 I				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期

《一般教育目標(GIO)》

臨床見学実習の目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、休得できる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を説明できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について説明できる。
3. 臨床見学実習を遂行するための心構えができる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。

《成績評価の方法》

提出課題（ミニッツペーパー・ワークシート）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	概要の説明とアイスブレイク
2	オリエンテーション	概要の説明とアイスブレイク
3	学修者としてのマナー	社会医学技術学院の学生としての立ち居振る舞いとは何か
4	理学療法士の職域について	理学療法士の仕事を再考する
5	医療安全について	医療安全とは何を指すのか、責任はどこにあるのか
6	感染症について	感染の種類と対応について ～医療従事者としてのエチケットを考えてみる～
7	実習地とのかかわりについて	実習地とのかかわりについて
8	医療人としての身だしなみとは	「医療人」というキーワードを主張して、身だしなみを考えてみる
9	医療の質について	ドナベディアンモデルから医療の質を考える
10	記録の方法	実習中の「記録」の方法
11	実習ストレスのケア	ストレス対処法について
12	KYT	危険予知トレーニング (KYT)
13	知識の整理	解剖学・生理学・運動学の知識を整理する
14	実習の心構え	臨床実習とは何か、実習前準備
15	実習の心構え	臨床実習とは何か、実習前準備

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	フィジカルアセスメント				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

専門基礎科目の知識を理学療法評価学へ発展させるために、解剖学・生理学・運動学にフィジカルアセスメントの必要性を理解し、そのスキルを習得する。

《テキスト》

林 典雄：『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改定第2版』。2011年，『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改定第2版』。メジカルビュー社。2012年。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《目標行動(SBO)》

1. 解剖学・生理学・運動学の知識を実技と結びつけることができる
2. 視診ができる。
3. 触診ができる。
4. 聴診ができる。
5. 基本的なバイタルサインを測定できる。

《学生の留意点》

講義前に実技のできる服装に着替え、必要物品を準備すること。積極的に参加し技術習得に努めること（私語・スマートフォン操作等、講義・技術習得の妨げとなる行為があった場合は欠席扱いとし、退室を命ずることがある）。知識面・実技の復習を必ず行うこと。

《成績評価の方法》

実技試験：70%，筆記試験：30%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション・バイタル①	オリエンテーション。バイタルとは（視診・触診・聴診・血圧・脈拍）。
2	バイタル②	実技（脈拍、血圧測定）
3	触診（骨）①	実技（ランドマークの触診）
4	触診（骨）②	実技（ランドマークの触診）
5	触診（骨）③	実技（ランドマークの触診）
6	身体測定①	実技（四肢長測定）
7	触診（筋）①	上肢の筋
8	触診（筋）②	上肢の筋
9	触診（筋）③	上肢の筋
10	触診（筋）④	下肢の筋
11	触診（筋）⑤	下肢の筋
12	触診（筋）⑥	下肢の筋
13	触診（筋）⑦	体幹の筋
14	触診（筋）⑧	頸部・頭部の筋
15	身体測定②	実技（周径測定）

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境支援理学療法学				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

・自立支援のために、国際生活機能分類（ICF）における環境因子を理解する。
・今科目では環境因子の一部である物的環境と人的環境に焦点をあて、車椅子・福祉機器・住宅改造・周辺環境について検討し、すべての人が住みやすい生活環境を創造する。

《目標行動(SBO)》

- ①車椅子・福祉機器の目的・機能を説明でき、操作方法を指導でき、メンテナンスできる
- ②車椅子のシーティングシステムを対象者に適用できる
- ③住環境及び自宅周辺環境について評価できる

《成績評価の方法》

課題80%（レポート50%，発表30%），実技試験20%
詳細は授業初日に説明します。

《テキスト》

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019
福祉機器 選び方・使い方 副読本 ベッド、リフト等移乗用品、杖・歩行器、車いす 基本動作編。

《参考図書》

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019
福祉機器 選び方・使い方 副読本 住宅改修、入浴、トイレ
わが家をバリアフリーに 住宅改修編。
一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019
福祉機器 選び方・使い方 副読本 福祉車両、福祉に役立つ
情報機器・電子機器、自助具 自立支援編。

《学生の留意点》

- ・朝から行う学外活動（国際福祉機器展見学）について職場に事前に了解を得ること。
- ・各自、必要な課題は実施した上で授業に臨むこと。課題を行わず講義に参加することは自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。お互いの考えを学ぶことで学習効果が高まるため積極的に発言し、共に学ぶ場を皆で創ること。

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	環境	オリエンテーション、ICF、環境因子について、住宅の基本的考え方、自宅のバリア調査
2	国際福祉機器展（説明）	国際医療福祉機器展に関するオリエンテーション、自宅のバリアGW
3	国際福祉機器展（参加）	国際医療福祉機器展参加（10月21日午前2限 東京ビックサイト）
4	国際福祉機器展（参加）	国際医療福祉機器展参加（10月21日午後3限 東京ビックサイト）
5	国際福祉機器展（参加）	国際医療福祉機器展参加（10月21日午後4限 東京ビックサイト）
6	国際福祉機器展（振り返り）	国際医療福祉機器展振り返り（10月21日夜間2限 学内学習）
7	健常者と一番身近な住宅環境	自宅のバリアと健常者に対して福祉機器を適用する
8	高齢者と一番身近な住宅環境	自宅のバリアと高齢者に対して福祉機器を適用する
9	健常者と移動	自宅のバリアと健常者に対して車いすを適用・操作する
10	高齢者と移動	自宅のバリアと高齢者に対して車いすを適用・操作する
11	障害者と移動	自宅のバリアと障害者に対して車いすと福祉機器を適用する
12	利用者・患者と環境	見学実習の対象者の自宅復帰を想定して、車いす・福祉機器を適用する
13	利用者・患者と環境	見学実習の対象者の自宅復帰を想定して、車いす・福祉機器を適用する
14	利用者・患者と環境	見学実習の対象者の自宅復帰を想定して、車いす・福祉機器を適用する
15	環境	車いす・福祉機器について目的・機能・操作方法について発表する

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	実習	単位・回	1単位・0回	開講年次・開講期	1年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士としての役割を知り、今後の学習意欲を高めるために、臨床現場の見学実習を通じて理学療法士の専門性を学ぶ。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 実習施設の特徴や役割を説明できる
2. 実習施設のリハビリテーション全体における位置づけ、理学療法・作業療法部門の組織、役割を説明できる
3. 関連他部門（職種）の役割と連携について説明できる
4. 基本的なビジネスマナーを実施できる
5. 医療安全、実習施設規則、個人情報保護を遵守できる
6. 実習で得た知識や内容を臨床実習Ⅱに向けて共有出来る

《学生の留意点》

何を見学するのかを明確にし、理学療法士と対象者の関わり方がどのように行われていたのか、対象者の困りごとは何なのかを見学してくること。また、その上であいさつや質問などを自ら積極的にできるように心がけること。

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナーを総合的に勘案して評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	施設の特徴、理学療法士の役割を知る。	5日間の臨床見学実習
2	発表・共有	実習後セミナー
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学Ⅱ				
担当者氏名	帯刀 隆之				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価や治療技術論への学習の基礎とするために、理学療法士に最低限必要な下部体幹から足部までの運動学を学ぶ。また主要な骨指標について触知を体験する。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』。医歯薬出版。2012
平田幸男訳：『解剖学アトラス』。文光堂。2012

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』。医歯薬出版。2012
塩田悦二訳：『カパンジー機能解剖学Ⅱ 下肢』。医歯薬出版。2010

《目標行動(SBO)》

1. 骨盤の構造と運動を説明することができる
2. 股・膝・足関節の構造と運動を説明することができる
3. 関節に係る力を説明し関節合力を計算できる
4. 主要な骨指標を触知できる (*主要項目は別に示す)

《学生の留意点》

基幹科目の一つです。予習・復習を十分にしながら確実に理解を進めてください。また、文章作成力や表現力も養ってください。そのために課題(ワークシート)を通じて、対面による添削学習機会を有効活用してください

《成績評価の方法》

期末試験(70%)、課題(ワークシート・筋解剖テスト:30%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かし「理学療法評価や治療技術論への学習の基礎となるような運動学事項の理解」を目指す。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	骨盤の構造と運動表現_1	運動学概論再覧/骨盤の運動方向表現
2	骨盤の構造と運動表現_2	骨盤の解剖学的理解と骨盤傾斜角の評価
3	骨盤の構造と運動表現_3	骨盤の運動と姿勢との関係
4	股関節の構造と機能_1	大腿骨の解剖学的理解と股関節への組合せ
5	股関節の構造と機能_2	股関節の構造と機能/作用筋と靭帯機構
6	股関節の構造と機能_3	関節合力とテコ/股関節合力の計算
7	膝関節の構造と機能_1	膝関節の解剖学的理解と運動
8	膝関節の構造と機能_2	膝関節の安定化機構
9	膝関節の構造と機能_3	膝関節のバイオメカニクス
10	足関節・足部の構造と機能_1	足関節足部の解剖学的理解と運動
11	足関節・足部の構造と機能_1	足関節足部に特有な関節軸その運動/足アーチの機能
12	骨指標の触察技術_1	骨指標の触察と運動の観察1 (骨盤・股関節)
13	骨指標の触察技術_2	骨指標の触察と運動の観察2 (大腿部のレリーフ・膝関節)
14	骨指標の触察技術_3	骨指標の触察と運動の観察3 (膝関節安定性テスト・足関節足部)
15	予備日	前期のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習				
担当者氏名	沼尾 拓、帯刀 隆之				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

今までの運動学を包括的に理解するために健常成人の運動学の知識を身につける。

《テキスト》

畠中泰彦：『PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析』．羊土社．2015年

《参考図書》

中村隆一他：『基礎運動学第6版』．医歯薬出版株式会社．2003年．

《目標行動(SBO)》

1. 正常歩行を説明できる
2. 身体運動を運動連鎖として説明できる
3. 正常な呼吸，代謝を説明できる
4. 筋力，床反力，運動制御の基本的事項を説明できる

《学生の留意点》

各単元は1回ごとに完結する参加型の演習で構成される．
欠席のないように注意すること．
積極的・能動的に参加することが重要．クラスを3班にグループ分けして行う．

《成績評価の方法》

筆記試験50％ レポート50％

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている．

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	立位・APA	姿勢と身体重心の理解
2	立ち上がり	立ち上がりと身体重心移動処理の理解
3	正常歩行	歩行分析に伴う用語の理解
4	正常歩行	歩行相の区分
5	正常歩行	各相の筋活動
6	正常歩行	正常歩行時の身体重心移動処理の理解
7	実験（立位，歩行時筋活動，呼吸循環）	立位，歩行時筋活動，呼吸循環，各グループに分かれてそれぞれの動作測定
8	立位	立位実験班による小グループでの講義（グループワーク）
9	歩行筋活動	歩行筋活動実験班による小グループでの講義（グループワーク）
10	呼吸循環	呼吸循環実験班による小グループでの講義（グループワーク）
11	実験（APA，立ち上がり，歩行床反力）	APA，立ち上がり，歩行床反力，各グループに分かれてそれぞれの動作測定
12	APA	APA実験班による小グループでの講義（グループワーク）
13	立ち上がり	立ち上がり実験班による小グループでの講義（グループワーク）
14	歩行床反力	歩行床反力実験班による小グループでの講義（グループワーク）
15	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	神経内科学				
担当者氏名	栗崎 博司、板東 充秋				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ。

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』，南江堂，2017年。

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経機能解剖／神経生理／診断総論（脳血管障害を含む）
2	各論	変性疾患の基礎と在宅におけるALS患者への支援
3	〃	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
4	〃	高次脳機能障害
5	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
6	総論	神経薬理／治療総論／神経の成長・加齢
7	症候学	意識障害／脳神経／運動の経路
8	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
9	〃	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
10	各論	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
11	〃	脳腫瘍／感染
12	〃	筋疾患／重症筋無力症
13	〃	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
14	〃	脱髄疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
15	〃	小児先天性疾患

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学				
担当者氏名	森田 浩章、増岡 一典、島田 崇史				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法の評価学・治療学へ展開するために、代表的な整形外科疾患の病態、症状、評価・検査、一般的な整形外科治療について理解する。

《テキスト》

医療情報科学研究所編：『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』、メディックメディア、2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 骨、関節、筋、神経の解剖学の知識を理解できる
2. 代表的な疾患名を列挙し、症状について説明できる
3. 各疾患の診断方法（診断基準、分類、症状などの所見等）を理解、説明できる
4. 各疾患の病態生理として、その発生要因を理解できる
5. 各疾患の一般的な治療方法を理解できる

《学生の留意点》

身体構造（解剖）の問題を取り扱う臨床医学です。どのような領域においても対象者が有していることが多く、その症状・病態生理・評価（検査法）・整形外科治療の理解は、安全かつ効果的な理学療法につながります。3人で分担し、順番が前後することがあります。

《成績評価の方法》

定期試験100%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	整形外科総論	整形外科とは、骨の病態、病理・骨、軟骨の修復と再生
2	診断総論	診療の基本 診療の基本・現症の取り方・検査
3	治療総論	保存療法・手術療法
4	整形外科疾患総論 感染	関節リウマチ
5	〃	先天性骨系統疾患等
6	〃	骨腫瘍と軟部腫瘍
7	整形外科疾患各論 ～外傷・変形性関節症	外傷総論 骨折総論／骨折各論
8	変形性関節症	病態 治療（保存・手術療法）
9	整形外科疾患各論 ～各関節	股関節の疾患 膝関節の疾患
10	〃	理学療法士と整形外科 肩関節の疾患
11	〃	肩関節の疾患 肘関節の疾患
12	〃	手関節の疾患
13	〃	下肢関節の疾患 足関節の疾患
14	〃	末梢神経損傷 脊髄損傷（疫学、病態、不全損傷、合併症）
15	〃	脊柱の疾患

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床医学（内科学）				
担当者氏名	岡崎 史子、川村 哲也、関 正康、原田 芳巳				
授業方法	講義	単位・回	臨床医学で3単位・14回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

内科疾患の知識をもとに、理学療法に活かすために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療を知る。

《テキスト》

奈良勲他監修：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野内科学』。医学書院。2014

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

1. 内科学で扱う疾患について説明できる
2. 主な循環器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
3. 主な代謝性疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
4. 主な呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
5. 主な消化器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験47点分（老年医学 33点、小児科学 20点分）

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、複数の医師の先生が担当し、その実務経験を授業内容の講義などにかした授業となっています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内科学総論	(岡崎史子 先生)
2	血液、内分泌疾患①	(原田芳巳 先生)
3	血液、内分泌疾患②	(")
4	血液、内分泌疾患③	(")
5	循環器疾患①	(杉山佳史 先生)
6	循環器疾患②	(")
7	循環器疾患③	(")
8	消化器疾患①	(政木隆博 先生)
9	消化器疾患②	(")
10	呼吸器疾患①	(関 好孝 先生)
11	呼吸器疾患②	(")
12	感染症	(関 正康 先生)
13	腎臓疾患	(川村 哲也 先生)
14	総論まとめ	(岡崎史子 先生)
15	**	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床医学（小児科学）				
担当者氏名	保崎 明				
授業方法	講義	単位・回	臨床医学で3単位・6回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

奈良勲監：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野小児科学』。医学書院。2018

清野佳紀：『NEW小児科学』第2版。南江堂。2003

《目標行動(SBO)》

1. 先天異常について説明できる
2. 新生児の特徴について説明できる
3. 感染症、また予防接種の種類を列挙できる
4. 小児の発達過程を説明できる
5. 小児保健について説明できる
6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる

《学生の留意点》

「こどもは大人の小型ではない」ので、臨床現場で小児に適切に対応する為、発達・発達途上にある各年齢層の小児の身体的・心理的特徴、及び疾病の特徴をよく理解し、問題解決・治療・指導等において必要な技能・相応しい態度を身につけなければならない。小児科医だけでなく、理学療法士・作業療法士の他、小児を対象とする医療従事者に要求される能力である。

《成績評価の方法》

期末試験 20点分（内科学47点，老年医学 33点分）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は保崎明先生が担当し、その実務経験を授業内容の小児科学に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	小児の疾病 先天異常	先天異常・新生児
2	〃	先天異常・新生児
3	小児の疾病 感染症	感染症
4	〃	感染症
5	小児の疾病と障害 保健	発達と小児保健・循環器障害
6	〃	発達と小児保健・循環器障害
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床医学（老年医学）				
担当者氏名	遠藤 敏				
授業方法	講義	単位・回	臨床医学で3単位・10回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的変化や老年者の疾患の特徴について学ぶ

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

大内尉義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』．医学書院．2014

日本老年医学会編：『老年医学テキスト第3版』．MEDICAL VIEW．2013

《目標行動(SBO)》

1. 老年医学と老年学の説明が出来る
2. 高齢社会の特徴と医療・福祉施策を言える
3. 老化と加齢、老年症候群の特徴を言える
4. 高齢期の生理的特徴について説明できる
5. フレイルとロコモティブ・シンдрームを説明できる
6. 高齢者の機能・生活評価の説明ができる

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしたい

《成績評価の方法》

老年医学 33点（内科学47点分、小児科学 20点分）
〔期末試験（80％）＋課題（20％）〕

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容の老年学に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	老化現象	加齢に伴う老化現象の状況
4	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
5	高齢者の生理的特徴1	高齢期の生理的特徴（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器）
6	高齢者の生理的特徴2	高齢期の生理的特徴（呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器）
7	フレイル、ロコモティブ・シンдрーム	フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンдрームの理解
8	高齢者の主な疾患	高齢者における、特に重要な疾患
9	認知症の理解	認知症特有の症状の理解
10	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
11		
12		
13		
14		
15		

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	精神医学				
担当者氏名	河野 達哉、高橋 章郎、妹尾 靖晃、野口 雄司				
授業方法	講義	単位・回	3単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

精神疾患のある対象者を的確に理解し、理学療法へ展開するために、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療を知る。

《テキスト》

上野 武治：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版』。医学書院。2015

《参考図書》

尾崎 紀夫：『標準精神医学 第7版』。医学書院。2018
大熊 輝雄：『現代臨床精神医学改訂第12版』。金原出版株式会社。2013

《目標行動(SBO)》

1. 精神医学の定義と関連領域について説明できる
2. 精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる
3. 精神障害の成因と分類について説明できる
4. 精神障害の際に出現する精神症状について説明できる
5. 主な疾患についての診断と評価、治療について説明できる
6. 精神障害者が利用できる精神医療・福祉制度について説明できる

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《学生の留意点》

《実務経験のある教員による科目》

当該分野におけるセラピストとしての実務の経験を、精神医学の基礎という観点から授業内容に生かした科目としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	精神医学とは・精神障害の成因と分類
2	〃	精神機能の障害と精神症状
3	〃	精神障害の診断と評価
4	各論	脳器質性精神障害
5	〃	症状性精神障害・精神作用物質
6	〃	統合失調症（1）
7	〃	統合失調症（2）
8	〃	気分（感情）障害
9	〃	神経症性障害（不安症・強迫症・解離症・身体症状症他）
10	〃	パーソナリティ障害
11	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
12	〃	精神遅滞 心理的発達の障害
13	〃	精神障害者の雇用促進と就労支援
14	〃	精神科保健・福祉の制度について
15	〃	精神障害リハビリテーション 各種治療法まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション医学				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』
・ 南江堂、2016

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる
4. 各障害の特徴を列挙できる

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭において勉強して欲しい。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	脊髄損傷1	病態総論、診断法、合併症
5	脊髄損傷2	急性期のリハビリテーション
6	脊髄損傷3	慢性期のリハビリテーション
7	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	関節リウマチ2	診断と評価その2、リハビリテーション
9	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変形症
10	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー
11	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	切断1	総論、切断と義肢
13	切断2	切断のリハビリテーション
14	循環器・呼吸器	心機能及び呼吸機能障害のリハビリテーション
15	小児リハ	小児のリハビリテーション、その他

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

関節可動域測定・徒手筋力検査を実施するために関節可動域測定、徒手筋力検査の意義を理解・実施できる。

《テキスト》

Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著, 津山直一 訳: 『新・徒手筋力検査法 原著第10版』, 協同医書出版社, 2020

《参考図書》

青木主悦: 『ROMナビ』, 有限会社ラウンドフラット, 2013
中村利考: 『標準整形外科学』, 医学書院, 2017

《目標行動(SBO)》

1. 定義・目的・原則を説明できる
2. リエンションや測定手順, 注意点, リスク管理を説明できる
3. 記録方法, 参考可動域, 測定器具の使用方法を説明できる
4. 測定に必要な基本軸・移動軸・ランドマークを説明でき, 基本軸, 移動軸に正しく角度計を当て測定できる
5. 最終域感を体験することができる
6. 代償抑制を行え, 正しく測定し, 主動作筋, 測定肢位が言える

《成績評価の方法》

関節可動域測定50%(筆記・実技) 徒手筋力検査 50%(筆記・実技)によって評価を行う。それぞれの試験において全体の60%かつ, 筆記・実技合計点数が60%の両方を満たないものは再試験を課す。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください
3. 数多くの経験をするために, 実技では様々な人と練習を行ってください

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し, その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	関節可動域	関節可動域検査総論: 意義・目的・原則
2	関節可動域	関節可動域測定: 上肢・肩甲帯
3	関節可動域	関節可動域測定: 上肢・肩甲帯
4	関節可動域	関節可動域測定: 下肢
5	関節可動域	関節可動域測定: 下肢
6	関節可動域	関節可動域測定: 頸部・体幹
7	関節可動域	関節可動域測定: 手指・足趾・メジャーを使用した測定
8	関節可動域	関節可動域と日常生活動作との関連性・関節可動域測定のまとめ
9	徒手筋力測定	徒手筋力測定総論: 意義・目的・原則
10	徒手筋力測定	徒手筋力測定: 上肢・肩甲帯
11	徒手筋力測定	徒手筋力測定: 上肢・肩甲帯
12	徒手筋力測定	徒手筋力測定: 下肢
13	徒手筋力測定	徒手筋力測定: 下肢
14	徒手筋力測定	徒手筋力測定: 頸部・体幹
15	徒手筋力測定	日常生活と筋力の関係性について・徒手筋力測定のまとめ

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱ				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を習得する。

《テキスト》

鈴木 則宏：『神経診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ 改訂第2版』。メディカルビュー社。2015年

《参考図書》

松澤正著：『理学療法評価学 改訂第6版』。金原出版。2016年

田崎義昭他著：『ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版』。南山堂。2016年

医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』。メディックメディア。2017年

《目標行動(SBO)》

1. 各々の検査の定義・目的・原則を説明できる
2. 測定を実施する際に、適切なリエンションを実施できる
3. 各々の検査の一般的な測定手順、注意点、リスクを説明できる
4. 検査結果の記録方法、測定器具の使用方法を説明できる
5. それぞれの神経学的検査と障害・疾患の関係、神経解剖・生理学的背景を説明できる
6. 検査時に適切な肢位をとらせ、適切な刺激を与えることができる

《成績評価の方法》

筆記試験50%・実技試験50%

《学生の留意点》

解剖学・運動学・生理学・神経内科学の知識が前提となるので十分復習しておくこと。

実技は動きやすい服装（Tシャツ・短パン）に着替えること

数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経学的検査とは、	麻痺の分類、中枢神経・末梢神経
2	感覚検査理論	
3	感覚検査実技	(触覚・痛覚)
4	感覚検査実技	(温度覚・深部覚・二点識別覚・足底触圧覚)
5	反射検査理論	
6	反射検査実技	
7	筋緊張・筋萎縮理論	
8	筋緊張検査実技	(視診・触診・伸展性)
9	筋緊張検査実技	(懸振性・被動性)
10	運動失調検査理論・実技	
11	バランス理論	
12	バランス検査実技	
13	脳神経検査理論・実技	
14	高次脳機能障害検査理論・実技	
15	意識障害、認知症理論・実技	

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学概論				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期

《一般教育目標(GIO)》

多様な能力低下に対して適切な運動療法の計画立案ができるようになるために、生理学的、解剖学および運動学的視点から基本的な運動療法を理解する

《テキスト》

市橋則明編集：『運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版』。文光堂。2014

《参考図書》

勝田茂著：『運動生理学20講 第2版』。朝倉書店。1999
吉尾雅春 編集：『標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版』。医学書院。2016

《目標行動(SBO)》

1. 関節可動域訓練の方法と設定項目を列挙できる
2. 適切な筋力増強訓練の方法と設定項目を列挙できる
3. 適切な持久力訓練の設定項目を列挙できる
4. 協調性運動障害について、治療の原則を説明できる
5. バランス制御に関わる反射・反応を列挙できる
6. 基本的な運動学習に関する用語を説明できる
7. リハビリ中止基準を列挙でき、リスクの管理について説明できる

《成績評価の方法》

小テスト:15% 期末テスト:筆記試験85%
小テスト 関節可動域制限に対する運動療法、筋力低下に対する運動療法、持久力低下に対する運動療法に関して小テストを行う。
再試要件 小テスト(15点)、期末試験(85点)の合計100点のうち合計60点未満の場合は再試験とする。

《学生の留意点》

初めての治療学の科目となります。治療の基礎となる解剖学、生理学、運動学、バイオメカニクスは十分に復習して臨んでください。また評価学Ⅰ・Ⅱとの知識をつなぎ合わせながら進めていきます。その前提を基に、治療のため運動を行うということはどのような事なのか考えていきましょう。
実技の時間は動ける格好で臨んでください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は佐々木亮平（理学療法士）が担当し、その実務経験を治療知識獲得、臨床的な治療方法獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	運動療法学 総論	運動療法とはなにか
2	関節可動域制限に対する運動療法	可動域が低下する理由、エンドフィールと関節可動域
3	関節可動域制限に対する運動療法②	関節可動域訓練の理論と方法
4	関節可動域制限に対する運動療法③	関節可動域訓練の実際
5	筋力低下に対する運動療法	筋力が低下する理由、筋力向上の生理学的仕組み
6	筋力低下に対する運動療法②	遠心性収縮と求心性収縮の理解とRM (Repetition Maximun) の理解
7	筋力低下に対する運動療法③	筋力増強訓練の実際
8	持久力低下に対する運動療法	持久力の定義と運動のエネルギー源
9	持久力低下に対する運動療法②	持久的運動に対する身体の生理学的応答
10	持久力低下に対する運動療法③	持久力低下に対する運動療法設定のための運動強度の理解
11	協調性運動障害に対する運動療法	協調性運動障害に対する理解と解剖学的要因、運動療法
12	バランス能力低下に対する運動療法	バランス制御の反射階層理論、システム理論の理解
13	運動学習	運動学習の基本的理論の理解
14	リスク管理	運動療法とリスク、リスクの回避
15	運動療法の実際	ケーススタディー

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器障害理学療法学				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

整形外科疾患の病態と障害を学び、それらに対する検査測定を選択・実行でき、基本的な治療プログラムを立案とその実施ができるようになる。

《目標行動(SBO)》

1. 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる
2. 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を理解・説明できる
3. 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる
4. 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる
5. 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる

《成績評価の方法》

実技試験100%（身だしなみのチェックを満たさないとゼロ点）

《テキスト》

神野哲也監：『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』。羊土社。2012，医療情報科学研究所編：『病気がみえる vol. 11 運動器・整形外科』。メディックメディア。2017

《参考図書》

井樋栄二，吉川秀樹，津村弘，田中栄，高木理彰：『標準整形外科学』。第14版。医学書院。2020
S. Hoppenfeld 著：『図解 四肢と脊椎の診かた』。医歯薬出版。1984
市橋則明編：『運動療法学』。第2版。文光堂。2014

《学生の留意点》

患者さんと接するとき、会話すること、触れること、動かすこと、動いてもらうこと、検査測定すること、治療すること、すべてに意味があります。実技能力を高めるには意味を理解し、反復練習する必要があります。授業外でも実技練習を重ねて卒業するまでに実技能力を高められるだけ高める意気込みで参加してください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を整形外科疾患の病態把握・検査測定・運動療法の思考と実技に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	授業説明	整形外科リハにおける評価・治療、疼痛の検査・評価・治療、骨折と脱臼の評価・治療
2	総論	総論：筋力増強運動・ストレッチング
3	〃	総論：変形性関節症の評価・治療
4	各論	肩関節の評価・治療
5	〃	肩関節の症例問題
6	〃	肘関節の評価・治療・症例問題
7	〃	手関節・手部の評価・治療・症例問題
8	〃	股関節の評価・治療
9	〃	股関節の症例問題
10	〃	膝関節の評価・治療・症例問題
11	〃	下腿の評価・治療・症例問題
12	〃	足関節・足部の評価・治療・症例問題
13	〃	上部脊椎の評価・治療・症例問題
14	〃	下部脊椎の評価・治療・症例問題
15	〃	関節リウマチの評価・治療・症例問題

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論				
担当者氏名	長屋 説				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っている日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良典監修：『日常生活活動学・生活環境学第4版』、医学書院、2017年。千野直一他：『脳卒中の機能評価－SIASとFIM「基礎編」』、医歯薬出版、2016年。

《参考図書》

伊藤利之著：『ADLとその周辺』、医学書院、2015年
大川嗣雄編：『日常生活動作（活動）』、医歯薬出版、1999年

《目標行動(SBO)》

1. 日常生活活動の概念、範囲（セルフケア、移動、コミュニケーション、IADL）が説明できる
2. 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる
3. セルフケアの動作分析ができる（健常者）
4. 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導が出来る
5. 動作の介助を標準的な方法で実施できる
6. 代表的な疾患をモデルにADL指導ができる

《学生の留意点》

1. 実技の際は白衣（KC）着用で参加して下さい
2. グループにて課題を遂行するものもあります。時間調整など協力して進めて下さい
3. レポートや課題の提出は時間を厳守して下さい

《成績評価の方法》

筆記試験 70% 実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	オリエンテーション・日常生活の概念・範囲/ICFによる理学療法評価
2	無意識のADLを視覚化してみる。	できるADLとしているADL、目標とするADL/「できる」の定義
3	ADL評価1（量的評価）	FIM・BI・自立度を使用した日常生活活動の評価/質的評価と量的評価
4	ADL評価2（質的評価）	セルフケアの分析①
5	ADL評価3（質的評価）	セルフケアの分析②（レポート作成）
6	ADL評価4（質的評価）	セルフケアの分析③（発表内容作成）セルフケアの分析④（質的評価発表）
7	ADL評価5（質的評価）	セルフケアの分析④（質的評価発表）
8	移動補助具1	移動補助具の種類と適応①（車椅子・整備点検）
9	移動補助具2	移動補助具の種類と適応②（杖・松葉杖その他 障害物 階段）
10	移乗動作介助	起居移乗・床上動作の種類と目的/複合動作
11	移動動作介助1	移乗・移動動作を誘導する①（全介助）
12	移動動作介助2	移乗・移動動作を介助する②（軽介助）
13	移動動作介助3	移乗・移動動作の介助方法を知る③（部分介助・半介助）
14	移動動作介助4	特殊な移乗・移動介助（介助バー・ずり落ち修正・T/B・リフター）
15	移動困難な状況とは	移動介助の応用編（THA）・高齢者とADL（フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニア）

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	臨床運動学				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《テキスト》

PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社

《参考図書》

観察による歩行分析 医学書院
介護にいかすバイオメカニクス 医学書院

《目標行動(SBO)》

1. 姿勢、動作の観察と分析について、評価全体の中の位置づけを説明できる
2. 姿勢、動作の観察と分析の目的と方法が説明できる
3. 姿勢・動作を観察し、運動学的知識や用語を用いて記述できる
4. 各疾患における特徴的な姿勢・動作を説明できる
5. 動作分析の結果から機能障害と社会的不利を予測することができる

《成績評価の方法》

課題50%、期末試験50%

《学生の留意点》

- ・演習時は動作観察し易い服装に着替えること
- ・講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります
- ・演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともに良い学びとなるよう努力すること
- ・講義内外に積極的に観て・考えて・書くことが上達に繋がります

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	動作観察・分析の目的と方法、動作分析に必要な知識、技術
2	姿勢の名称・姿勢観察と分析①	
3	姿勢観察と分析②	
4	健常者の動作観察と分析	起き上がり・立ち上がり
5	患者の動作観察と分析①	T H A術後を想定した起き上がり
6	患者の動作観察と分析②	片麻痺を想定した起き上がり
7	基本動作の観察と分析 まとめ	
8	健常者の歩行観察と分析 ①	
9	健常者の歩行観察と分析 ②	
10	異常歩行観察と分析①	
11	異常歩行観察と分析②	
12	異常歩行観察と分析③	
13	動作から機能障害、社会的不利を予測する①	
14	動作から機能障害、社会的不利を予測する②	
15	まとめ	

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学演習				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

適切な治療を提供できるようになるために、理学療法評価の位置づけや流れを理解し、症例検討を通じて理学療法評価の思考過程を理解、実践する。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

千住秀明監修：『理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版』、神陵文庫、2011年。
内山靖：『標準理学療法学（理学療法評価学）第2版』、医学書院、2004年。

《目標行動(SBO)》

1. 評価の手順を説明できる。
2. 評価の各項目（情報収集・問題点の抽出・目標設定・プログラム立案）について説明できる。
3. 得られた情報を解釈することができる。
4. 症例検討で、得られた情報の統合を行い、問題点を抽出できる。
5. 症例検討で、目標設定・治療計画立案を行うことができる。

《学生の留意点》

検査測定結果や情報収集結果を統合し治療プログラム立案までの思考過程を学ぶ授業である。思考を言語化することを意識して受講してほしい。

《成績評価の方法》

期末試験(60%)、レポート課題(40%)
再試験要件 期末試験(60%)と課題(40%)の合計100点のうち合計60点未満の者は再試験とする

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法評価とは・評価の流れ	
2	症例報告書の構成・情報収集とは	
3	情報の種類・医療面接	
4	機能障害を捉える	(機能障害の原因分析)
5	活動制限を捉える	(機能障害と生活場面の関連性)
6	検査結果の統合と解釈①	(個人・環境因子を含めた生活場面への帰結)
7	検査結果の統合と解釈②	(問題点リスト作成方法)
8	検査結果の統合と解釈③	(文章化の方法)
9	目標設定・プログラム立案の方法	
10	考察の文章化・理学療法評価のまとめ	
11	症例検討①	症例検討の提示
12	症例検討②	グループワーク
13	症例検討③	グループワーク
14	症例検討④	発表
15	症例検討⑤	発表とまとめ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	脳血管障害理学療法学				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

脳卒中後遺症患者に対し、理学療法を展開するために、脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける。

《テキスト》

原寛美、吉尾雅春 編集：『脳卒中理学療法の理論と技術』、MEDICAL VIEW. 2019年。

《参考図書》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』、市村出版、2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』、市村出版、2012年。、Oswald Steward著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』、丸善出版、2007年。、富田昌夫 訳：『Steps to Follow』、シュブリンガー・フェアーク東京、2005年。

《学生の留意点》

- *実技についてはジャージ・Tシャツ・短パン等で臨むこと
- *脳血管障害患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- *より多くの学生と実技を行うこと。

《目標行動(SBO)》

1. 脳画像を見て構造と機能が説明できる
2. 脳血管疾患における障害を説明できる
3. 脳血管疾患の評価項目を列挙し、実施・記載することができる
4. 各姿勢・正常動作における構成要素を説明し、健常者に対し動作を誘導できる
5. 脳血管障害患者の学療法評価を立案・実施できる
6. 脳血管障害患者の動作改善のための課題提示ができる

《成績評価の方法》

実技試験 (30%)、筆記試験 (70%)

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳血管障害総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理と脳画像診断
2	脳血管障害各論	脳血管障害の病態と障害の理解
3	脳血管障害患者における筋緊張異常	筋緊張と腱反射の関係、連合反応、筋緊張の評価
4	脳血管障害患者の評価	Brunnstrom Recovery Stage による評価
5	脳血管障害の合併症	嚥下障害、二次的合併症
6	急性期理学療法総論	急性期のリスク管理、予後予測、治療の考え方
7	急性期理学療法各論	急性期のポジショニング、機能障害に対するハンドリング
8	治療学①	脳血管障害患者の姿勢の評価
9	治療学②	脳血管障害患者の起居動作の評価とその誘導
10	治療学③	脳血管障害患者の立ち上がり動作の評価とその誘導
11	治療学④	脳血管障害患者の歩行動作の評価とその誘導
12	脳血管障害における高次脳機能障害	脳血管障害の包括的評価、高次脳機能障害の評価と治療
13	症例検討①	模擬症例に対する評価演習
14	症例検討②	模擬症例に対する治療方法の検討①
15	症例検討③	模擬症例に対する治療方法の検討②

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	発達障害理学療法学				
担当者氏名	平井 孝明				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の対象者に理学療法を実施するために、代表的な小児疾患について理解する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

毎回の授業時に紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 小児疾患の特徴について説明できる
2. 臨床像より評価と問題点の指摘ができ、治療の方向を提示できる
3. 脳性麻痺の理学療法評価と治療について説明できる
4. 重症心身障害の特徴と合併症について説明できる
5. 上記以外の代表的な小児疾患について、臨床像、理学療法評価と治療について述べる事が出来る

《成績評価の方法》

ワークシート25%, 課題発表25%, 質疑応答25, 期末試験25%
ワークシート：毎回授業の最後に配布します。期限内に提出して下さい。

課題：①整形外科疾患②筋疾患③二分脊椎

④脳性麻痺・痙直型

⑤脳性麻痺・アテトーゼ型⑥重症心身障害児

《学生の留意点》

質疑応答、グループ発表、実技を行います

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 小児理学療法	運動発達概論, オリエンテーション, 発達の原則, 発達指標
2	小児理学療法	評価
3	〃	運動発達
4	〃	呼吸
5	〃	摂食嚥下
6	〃	整形外科疾患
7	〃	筋疾患
8	〃	二分脊椎
9	〃	二分脊椎
10	〃	脳性麻痺・痙直型
11	〃	脳性麻痺・痙直型
12	〃	脳性麻痺・アテトーゼ型
13	〃	脳性麻痺・アテトーゼ型
14	〃	重症心身障害児
15	〃	まとめ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	神経障害理学療法学				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	講義	単位・回	2単位・20回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

神経障害を有する対象者の理学療法を実施するために、それら疾患・障害の特性を踏まえた評価と機能・能力障害に対する運動療法から環境整備に至るまでの一連の治療体系を理解する

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

細田多穂：『理学療法ハンドブック』，協同医書出版，2010年。

石川 齊 編：『図解 理学療法技術ガイド』，文光堂，2015年

《目標行動(SBO)》

1. 各障害*の生じる病態・疫学・予後を記述できる
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる
3. 各障害の特徴を列挙できる
4. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる

〔* 各障害：末梢神経障害，脊髄損傷，神経筋疾患〕

《学生の留意点》

- 実技を行なうので，実技ができる服装で出席すること
- 進行性疾患に対するQOL向上への途を探る技術や態度を学ぶ

《成績評価の方法》

筆記試験（末梢神経障害30%，脊髄損傷40%，神経筋疾患30%）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は佐々木亮平（理学療法士）が担当し，その実務経験を治療知識獲得と臨床的な治療方法獲得に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経障害理学療法学総論	末梢神経障害と中枢神経障害について
2	末梢神経障害総論・各論	末梢神経損傷の病態と評価・治療
3	脊髄損傷総論	脊髄損傷の基礎
4	脊髄損傷	脊髄損傷完全型 アプローチの考え方／基本動作とADLの実際
5	脊髄損傷	脊髄損傷不全型1 アプローチの考え方
6	脊髄損傷	脊髄損傷不全型2 基本動作とADLの実際
7	脊髄損傷	脊髄損傷の治療プログラムの方法とその実際
8	神経筋疾患	神経筋疾患のオリエンテーション，ALSのリハビリテーション
9	神経筋疾患	SCD：脊髄小脳変性症 /MS：多発性硬化症 /PMD：進行性筋ジストロフィー
10	神経筋疾患	PD：パーキンソン障害へのアプローチ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

症例に適切な物理療法の立案と実施手順を行うために物理療法の基本操作を理解・実践する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト：改訂第2版』．南江堂．2013年，Michelle H. Cameron編著，渡部一郎 訳：『EBM物理療法 原著第3版』．医歯薬出版．2015年，柳澤健編集：『コールドマスターテキスト3物理療法学』．MEDICALVIEW．2009年，大塚彰監修：『学生のための物理療法学』．大学教育出版．2004年

《目標行動(SBO)》

1. 物理療法の生理的作用と適応を説明できる
2. 物理療法の禁忌と注意事項を説明できる
3. 基本的な操作を理解し実施できる
4. 適切なプログラムを実施できる

《学生の留意点》

動きやすい服装で参加して下さい。
理論だけではなく機器を実際に使用し，その実際に体験して下さい。
またプログラムとして選択できるように，どのような対象者に対して使用するのかを考えるように努めましょう。

《成績評価の方法》

筆記試験（50％）と実技試験（50％）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	物理療法概論	物理療法の概要
2	物理療法概論	炎症・疼痛
3	温熱療法	ホットパック，パラフィン等実施 適応および禁忌
4	寒冷療法	アイスパック等実施 適応および禁忌
5	機械刺激	CPM療法・牽引療法実施 適応および禁忌
6	機械刺激	マッサージ・モビライゼーション実施 適応および禁忌
7	電気刺激療法	低周波電気刺激療法・MT刺激実施 適応および禁忌
8	電気刺激療法	低周波電気刺激療法実施 適応および禁忌
9	超音波療法	超音波療法実施 適応および禁忌
10	高周波・光線療法	高周波・光線療法 適応および禁忌
11	水治療法	部分浴，全身浴実施 適応および禁忌
12	プログラム立案1	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する
13	プログラム立案2	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する
14	症例検討	モデルケーススタディ
15	症例検討	ケーススタディのプレゼンテーション

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論演習				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	演習	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士として日常生活動作獲得へ導けるようになるために、日常生活活動に対する個別性・多様性の認識を持ち、実技・体験から理学療法プランを臨機応変に考える必要性を理解する。

《テキスト》

《参考図書》

奈良勲監修：標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活環境学第4版』医学書院 2012
伊藤利之著：ADLとその周辺 第3版 医学書院2015

《目標行動(SBO)》

1. 疾患に応じたADLの特徴、動作方法、リスクを述べることができる
2. 疾患に応じたADLの特徴、動作方法、リスクを踏まえた対策・動作方法を述べるができる
3. 疾患に応じたADLの特徴、動作方法、リスクを踏まえた対策・動作方法の指導・介助を行うことができる

《学生の留意点》

医療福祉の現場で働くための第一歩であることを常に意識してください。
実技は経験する量が大事ですから繰り返して練習してください。

《成績評価の方法》

筆記試験（もしくはワークシート）20% 実技試験80%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を疾患ごとの日常生活を基に臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	導入	初回オリエンテーション
2	導入	危険予測
3	疾患別各論【関節リウマチのADL】①	ADL指導の考え方
4	疾患別各論【関節リウマチのADL】②	自助具について・作成
5	疾患別各論【THA・TKAのADL】①	ADL指導の考え方
6	疾患別各論【THA・TKAのADL】②	移動動作方法指導
7	疾患別各論【THA・TKAのADL】③	自助具の作成
8	疾患別各論【脳血管障害のADL】①	ADL指導の考え方
9	疾患別各論【脳血管障害のADL】②	ADL指導の考え方
10	疾患別各論【脳血管障害のADL】③	移動動作方法指導
11	疾患別各論【脳血管障害のADL】④	移動動作方法指導
12	疾患別各論【脳血管障害のADL】⑤	歩行介助
13	疾患別各論【脳血管障害のADL】⑥	床からの立ち上がり
14	福祉機器の使用法	車いす操作・歩行器・杖指導
15	福祉機器の使用法	車いす操作・歩行器・杖指導

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学				
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

1. 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために、構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
2. 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

『義肢装具学テキスト』第3版, 南江堂, 2018年

《参考図書》

『義肢装具のチェックポイント第8版』, 日本整形外科学会, 医学書院

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用に至る経緯が説明できる
2. 各義肢装具の機能および適応が説明できる

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要。知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める

《成績評価の方法》

筆記試験:50% , 小テスト:25% , 課題レポート:25%

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	義肢装具学総論
2	〃	切断者の評価
3	〃	大腿義足①
4	〃	大腿義足②
5	〃	大腿義足のギア・ソケットの作成
6	〃	足部と下腿義足
7	〃	股・膝・足部義足, 障害者スポーツ
8	〃	義肢装具の給付・処方・臨床での理学療法の流れ
9	装具学	下肢装具 総論
10	〃	短下肢装具
11	〃	長下肢装具
12	〃	膝装具・股装具
13	〃	下肢装具チェックアウト
14	〃	靴型装具・体幹装具
15	〃	上肢装具

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学演習				
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

1. 義肢装具使用による理学療法を知るために、模擬体験を通し理解を深める
2. 義肢装具の材料や機能を理解するために、模擬的な制作過程を実施する

《テキスト》

『義肢装具学テキスト』第3版, 南江堂, 2018年

《参考図書》

『義肢装具のチェックポイント第8版』, 日本整形外科学会, 医学書院

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用時における諸問題を説明できる
2. 各義肢装具の選択・チェックアウトができる

《学生の留意点》

理学療法における治療法の1つとして装具を用いることができるように知識だけでなく、装着しながら慣れる
同様に、義肢装着者に対する理学療法全般を経験とともに知識や技術を定着するよう取り組む

《成績評価の方法》

実技試験 50% 課題提出 50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	下腿義足・大腿義足歩行の特徴
2	〃	異常歩行
3	〃	義手の構造・機能・ADL
4	装具学	疾患別①
5	〃	疾患別②
6	〃	装具採型法実技
7	義肢装具全般	国家試験出題形式の解説
8	義肢装具全般	義肢装具士の役割・現状その他
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部障害理学療法学				
担当者氏名	小島 肇				
授業方法	講義	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とするがんを含めた内部障害を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・障害特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《目標行動(SBO)》

1. 内部障害対象者の病態・障害特性を説明できる。2. 内部障害対象者の理学療法評価ができる。3. 内部障害系理学療法を立案できる。4. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験50%, 実技試験30%, 症例検討20%。

《テキスト》

高橋哲也編：『ビジュアルレクチャー 内部障害理学療法学 第2版』。医歯薬出版。2017。

《参考図書》

『心臓リハビリテーション必携-指導士認定試験準拠-』。日本心臓リハビリテーション学会。2011。千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院。2008。『呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版』。照林社。2012。清野他監修：『糖尿病の理学療法』。メディカルレビュー。2015。

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部障害系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業で取り上げ、他の項目については教科書を用いて主体的に学修することが求められます。必ず予習して参加して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	健康増進と理学療法	ヘルスプロモーション
2	代謝障害と理学療法	肥満症，糖尿病
3	〃	慢性腎臓病，摂食・嚥下障害
4	〃	症例検討
5	循環機能障害と理学療法	循環機能評価：心電図，無酸素性作業閾値（AT）
6	〃	虚血性心疾患
7	〃	心不全
8	〃	末梢動脈疾患
9	〃	症例検討
10	呼吸機能障害と理学療法	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント，スパイロメトリ，フローボリューム曲線，6分間歩行試験
11	〃	急性呼吸不全：人工呼吸管理，インセンティブスパイロメトリ，排痰法，早期離床
12	〃	慢性呼吸不全：コンディショニング，呼吸練習，ADLトレーニング
13	〃	慢性閉塞性肺疾患：ロズバメ呼吸，運動療法
14	〃	症例検討
15	がんのリハビリテーション	病態・障害とリハビリテーション

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学技術論				
担当者氏名	山形 哲行、可児 利明、板倉 尚子				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

脳血管障害・スポーツ傷害・運動器障害など治療のために、多種多様な疾患・障害に対する各種の運動療法や手技（ハンドリング・徒手療法・PNF）を知る

《テキスト》

水間正澄・川手信行：『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた』，南江堂，2019年

《参考図書》

授業内で紹介

《目標行動(SBO)》

〈CVD〉脳血管障害患者に対して基本的な手技（ハンドリング）が健常者に実施できる

〈スポーツと理学療法〉

スポーツを取り巻く理学療法の役割・方法を説明できる

〈症例検討〉脳血管・運動器障害の症例検討に必要な知識を理解できる

徒手療法の考え方を理解でき、基本的手技を実施できる

〈PNF〉5. 基本的な治療概念の説明ができ、基本パターンの実施がで

《成績評価の方法》

〈CVD〉 模擬症例の治療内容に関するレポート／〈スポーツと理学療法〉 課題／〈症例検討〉①症例検討に関するレ

ポート ②課題に対するレポート／〈PNF〉 課題 【採点は科目回数割合で計算する】

《学生の留意点》

〈PNF〉 実技を主として行うのでTシャツ・スパッツ等で参加すること

〈CVD〉 治療場面を想定した実技を行います。動きやすい服装で参加すること

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容	
1	〈CVD〉	実技①	ハンドリング①寝返り～起き上がり
2	〃	実技②	ハンドリング②立ち上がり～歩行
3	〃	実技③	脳血管障害患者に対するバランスの再教育
4	〃	実技④	上肢の評価と治療
5	〃	実技⑤	模擬症例に対する治療実施演習
6	〈スポーツと理学療法〉	総論	スポーツを取り巻く理学療法の役割
7	〃	演習	スポーツ現場の実際や方法
8	〈症例検討①脳血管障害〉	モデルケースステディ	
9	〃	モデルケースステディ	
10	〈症例検討②運動器障害〉	症例検討の基礎となる徒手療法の考え方	
11	〃	徒手療法の技術	
12	〈PNF〉	治療概念 PNFの治療概念と基本テクニック 7	
13	〃	実技①	基本パターン上肢，下肢 8
14	〃	実技②	基本パターン下肢，体幹
15	〃	実技③	基本パターン肩甲骨，骨盤，頸部，特殊テクニック

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境論				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

主に高齢者や障がい者の自立支援のために、住環境整備および周辺環境、福祉用具等に関する内容を理解し、すべての人が住みやすい生活環境を創造する。

《目標行動(SBO)》

- ①高齢者や障がい者の住環境の問題点や対策について説明できる。
- ②住宅改修の方法や福祉用具の種類、選び方、使用法などについて説明できる。
- ③自宅内、市街地、交通機関等の生活環境におけるバリア、バリアフリーについて説明することができる。

《成績評価の方法》

提出課題 (40%)
発表 (発表1: 40%、発表2: 20%)

《テキスト》

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本 ベッド、リフト等移乗用品、杖・歩行器、車いす 基本動作編。

《参考図書》

木村哲彦：生活環境論 第6版。医歯薬出版。2010。
鶴見隆正：日常生活活動学・生活環境学 第5版。医学書院。2017。

池田百合子：REHABILITATION LIFE。株式会社gene。2018。
野村敬：OT・PTのための住環境整備論 第2版。三輪書店。2012。
木之瀬隆：作業療法学全書 改訂第3版。協同医学出版社。2009。
福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト。

《学生の留意点》

- ・学外活動について十分配慮すること。
- ・各自、必要な課題は実施した上で授業に臨むこと。課題を行わず講義に参加することは自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。お互いの考えを学ぶことで学習効果が高まるため、自分の考えをもとに積極的に発言すること。共に学ぶ場を皆で創ること。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容の講義、グループワークなどにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	①	オリエンテーション、高齢者の特徴、統計資料から
2	①～③	高齢者の住環境（導入）
3	②③	日本住宅の特徴、住宅の基本的考え方（手すり、段差など）
4	②③	日本住宅の特徴、住宅の基本的考え方（手すり、段差など）
5	①～③	住環境整備事例、福祉用具
6	①～③	住環境整備事例、福祉用具
7	①～③	準備&学生発表1（自宅内のバリア・バリアフリー）
8	①～③	準備&学生発表1（自宅内のバリア・バリアフリー）
9	①～③	GW&学生発表2（市街地・交通機関のバリア・バリアフリー）
10	①～③	GW&学生発表2（市街地・交通機関のバリア・バリアフリー）
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I				
担当者氏名	福田 崇、小島 肇				
授業方法	実習	単位・回	1単位・0回	開講年次・開講期	3年・前期

《一般教育目標(GIO)》

指導者の指導のもとに、それまで学内で習得した検査・測定を臨床の実践の中で実施し、得られた結果に原因分析と解釈を行う。
う。理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を学習する。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 肢長・周径測定, ROMテスト, 徒手筋力テスト, 神経学的テストなどの検査測定が実施できる
2. 検査結果の原因分析が言える
3. 起居, 移乗・移動動作などの介助が行える

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		肢長・周径測定, ROMテスト, 徒手筋力テスト, 神経学的テストなどの検査測定の実施と記録を数多く実施させる。
2		実施した検査測定項目ごとに, 正常から逸脱した結果を抽出させ, 知識の範囲内で原因分析をさせる。
3		各検査間の関連性を考察させる。
4		標準的な方法で起居動作介助や移乗・移動動作などの介助を数多く実習させる。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅱ				
担当者氏名	福田 崇、小島 肇				
授業方法	実習	単位・回	2単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期

《一般教育目標(GIO)》

指導者の指導のもとに、標準的な症例の理学療法評価を学ぶ。すなわち、医療面接、観察、検査・測定の結果や収集した種々の情報の統合と解釈、問題点の抽出から目標設定の各々の方法を学ぶ。また、理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を学習する。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 医療面接、観察、神経学的テスト、Brunnstrom Recovery Stage、ADLテスト、バランス反応テストなどの検査測定が実施できる。
2. 担当症例について問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 担当症例について治療プログラムを基本的な範囲で挙げることができる。
4. 起居、移乗・移動動作などの指導や介助ができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における作業療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		症例1～2例を受け持たせ、検査測定の実施、分析及び解釈をさせる。
2		片麻痺を中心とした中枢神経疾患に対し、神経学的テスト、BRS-t、ADLテスト、バランス反応テストなどの検査測定の実施と記録を数多く実習させる。
3		問題点を「心身機能・身体構造」、「活動」のレベルを中心に抽出させ疾患と症例の把握
4		検査測定の結果と抽出した問題点、設定した目標との一貫性を考えさせる。
5		学生の能力に応じて、また時間の許す範囲で方法・度量・頻度などをふまえた治療プログラム立案を経験させる。
6		起居動作介助や移乗・移動動作などの介助を数多く実習させる。
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	行動科学				
担当者氏名	安永 明智				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

本講義は、人々の健康を支援していくために必要な行動科学の理論や対人援助のスキルについて理解を深めることを目的とする。人の行動の背景にある個人及び環境要因、健康支援に必要な理論やスキルについて学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

随時、紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 健康支援における行動科学の必要性を説明できる
2. 行動科学の理論を列挙し、説明できる
3. 健康支援において対人援助を円滑に進めていくために必要なコミュニケーション・スキルを説明できる
4. 行動科学の理論を健康支援の現場に応用していく方法を説明できる。

《学生の留意点》

討論等を取り入れ、授業を進めていく。したがって積極的に授業に参加し、能動的に学んでいくことを望む。また与えられた課題について下調べをする等の事前準備をして授業に参加することを義務とする。

《成績評価の方法》

課題レポート (100%)

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	行動科学とはどのような学問か	健康支援に行動科学が必要とされる背景
2	行動科学の背景となる心理学の理論①	学習理論
3	行動科学の背景となる心理学の理論②	動機づけ理論
4	行動科学理論①	社会的認知理論
5	行動科学理論②	トランスセオレティカル・モデル
6	行動科学理論③	ソーシャル・マーケティング
7	行動科学理論④	プリシード・プロシードモデル
8	行動科学理論⑤	エコロジカル・アプローチ
9	対人援助のスキル①	対人コミュニケーションの基礎
10	対人援助のスキル②	コミュニケーション・スキル
11	対人援助のスキル③	ヘルス・コミュニケーションとは何か
12	対人援助のスキル④	ヘルス・コミュニケーション：アサーション
13	対人援助のスキル⑤	ヘルス・コミュニケーション：動機づけ面接
14	健康支援の現場における行動科学の応用①	リハビリテーションを含む健康支援の現場で行動科学はどのように援用できるのか
15	健康支援の現場における行動科学の応用②	リハビリテーションを含む健康支援の現場で行動科学はどのように援用できるのか

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	統計学				
担当者氏名	江川 賢一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法及び臨床研究に応用・展開するために、医療統計学の基礎的を理解する

《テキスト》

とくに指定しない

《参考図書》

鳥居泰彦, はじめての統計学, 日本経済新聞社, 1994.
竹内淳, 高校数学でわかる統計学—本格的に理解するために (ブルーバックス), 講談社, 東京2012.
西内啓, 統計学が最強の学問である, ダイヤモンド社, 2013.

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法士に必要な統計学を説明できる
2. 理学療法研究における統計学の基礎概念を説明できる
3. 統計解析と研究デザインの関係を説明できる
4. データの種類に応じて適切な解析手法が適用できる
5. 理学療法研究における研究デザインを列挙できる

《学生の留意点》

受講までに高等学校「確率・統計」を復習すること。
数字に対する興味, 関心をもって授業外学習に取り組むこと
統計を用いてコミュニケーション能力を高めること。

《成績評価の方法》

プレゼンテーション60%, 質疑応答40%

《実務経験のある教員による科目》

研究機関における医学研究に従事した経験を活かして、臨床研究に必要な統計的手法を教授する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法統計学概論	理学療法における統計の必要性／統計学の学び方を学ぶ
2	〃	理学療法における統計の必要性／統計学の学び方を学ぶ
3	研究デザインと統計	理学療法研究の構造, リサーチクエスチョンを理解する
4	〃	理学療法研究の構造, リサーチクエスチョンを理解する
5	統計解析の方法	理学療法研究における統計解析を理解する
6	〃	理学療法研究における統計解析を理解する
7	データの理解 (講義)	データ収集, 解析, 報告の流れを学ぶ
8	〃	データ収集, 解析, 報告の流れを学ぶ
9	データの理解 (実習)	グラフの書き方を学ぶ
10	〃	グラフの書き方を学ぶ
11	〃	基本統計量の求め方を学ぶ
12	〃	基本統計量の求め方を学ぶ
13	プレゼンテーション	統計を活用して学習成果を報告する
14	〃	統計を活用して学習成果を報告する
15	理学療法への統計学の応用	理学療法における統計学の応用を知る

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論Ⅱ				
担当者氏名	小林 規彦				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

1. 日本の医療制度を知るために、歴史的背景および現状を理解し、リハビリテーション現場の保険・医療・福祉システムを考察する
2. 地域リハビリテーションを含む現場の諸問題を理解するために、事例検討を通し考察する

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

資料を配布します

《目標行動(SBO)》

1. 日本の保険・医療・福祉制度の概略を説明できる
2. リハビリテーション現場の諸問題（症例検討を通し）から、具体的行動目標を示せる

《学生の留意点》

授業は、講義と発表により構成される。学院内の生活では実感が持てない、臨床で重要な課題を数多く提示します。よって日常的にリハビリテーションに関連した事象に対して、意識的に情報収集する姿勢が望まれます。

《成績評価の方法》

課題プレゼンテーション資料：50%
発表時の質疑応答：50%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士実務のほか社会学分野ならびに介護保険分野実務経験をもとに展開する授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法概論Ⅱ 展開	日本の医療制度の仕組みと診療報酬体系
2	リスクマネジメントについて	
3	プレゼンテーション・質疑応答	リハビリテーションの現状と関連する諸制度Ⅰ
4	プレゼンテーション・質疑応答	リハビリテーションの現状と関連する諸制度Ⅱ
5	ディベート・トレーニング	日本の医療が抱える諸問題の検討
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法研究法演習				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	2単位・20回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

研究的疑問を解決するために、臨床研究および基礎医学研究方法論を理解し、研究を実践する

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 研究的疑問の明確化の方法を説明できる
2. 研究計画書をグループで作成しグループごとに実験を実施する
3. 研究発表を行なえる

《学生の留意点》

授業時間枠だけでは学習時間が不足する。課外においてもグループ学習に努めること

《成績評価の方法》

研究計画書の作成40%、研究報告書の作成40%、研究成果発表20%

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	研究法総論	研究計画書に備えられる事項 研究の種類／ 臨床的疑問の整理
2	研究方法論	文献の調べ方と読み方
3	研究方法論	研究方法論①
4	研究方法論	研究方法論②
5	研究計画書	研究計画書の作成
6	データ収集	データ取得
7	データ収集	データ取得
8	データ収集	データ取得
9	データ解析・発表資料作成	解析及び報告書作成
10	研究報告	最終発表会
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学特論				
担当者氏名	網本 和、江原 弘之、川島 敏生、小林 賢、佐々木 克則、田中 信行、保薊 吉秀、細井 匠				
授業方法	講義	単位・回	2単位・20回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

理学療法に応用・展開できるようになるために、より実践的
または先進的な運動療法の技術論を学ぶ

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 各技術論の概要を説明できる
2. 各技術論の理学療法における位置づけを言える
3. 基本的な範囲で評価、実施できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

各回授業内容レポート等

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	足底板療法	
2	ポバース概念に基づく評価と治療①	
3	ポバース概念に基づく評価と治療②	
4	高次脳機能障害と理学療法	
5	スポーツ傷害に対する理学療法	
6	運動学習に基づく理学療法	
7	ADLとその評価 (SAIS・FIM)	
8	精神科領域の理学療法	
9	障害者とスポーツ	
10	疼痛のリハビリテーション	
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	社会福祉学				
担当者氏名	川股 典子				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

心身障害や高齢などに起因する生活上の困難に対応するために、社会福祉全般の現状、高齢者福祉、障害者福祉、介護保険制度、社会保障制度について知る。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 社会福祉の概要を説明できる
2. リハビリテーションに関わる社会福祉（高齢者福祉、障害者福祉、介護保険制度、児童福祉）について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

課題レポート（100%）

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	社会保障	社会保障の全体像
2	〃	社会保障と社会福祉
3	老人福祉	高齢社会の背景
4	〃	施設福祉・在宅福祉
5	〃	介護保険制度
6	障害者福祉	「障害」について
7	〃	各種サービスの概要
8	児童福祉	各種サービスの概要
9	地域福祉	各種サービスの概要
10	まとめ	まとめ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域理学療法論				
担当者氏名	中村 岳雪、岩谷 清一、野長瀬 高志、坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

地域におけるリハビリテーションを実現するために、理学療法士が働く地域、地域で生活する人、地域の社会資源、地域における理学療法士の役割について理解する。

《目標行動(SBO)》

1. 地域リハビリテーションの概要を説明することができる
2. 生活支援が必要な状況を具体的に提示することができる
3. 症例検討を通じて生活支援プログラムを考えることができる
4. 考えを整理し、他職種に説明することができる

《成績評価の方法》

提出課題(地域調査) 成果物40% 発表10%
提出課題(事例検討) 成果物40% 発表10%

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019
福祉機器 選び方・使い方 副読本 住宅改修、入浴、トイレ
わが家をバリアフリーに 住宅改修編。
一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R. 2019
福祉機器 選び方・使い方 副読本 福祉車両、福祉に役立つ
情報機器・電子機器、自具具 自立支援編。

《学生の留意点》

- ・岩谷先生の講義時には形態測定しやすい服装に替える。
- ・ノートPC がある場合は持参可能(電源を取る延長コード持参)
- ・講義中に課題を行わず、受動的な講義参加は自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。共に学ぶ場を皆で創ること。
- ・就職希望地域に関する調査を実施する際に、教員側で配慮す

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、中村(理学療法士) 岩谷(作業療法士) 野長瀬(理学療法士) 坂田(理学療法士) が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	①オリエンテーション(坂田)	授業概要 提出課題に関する説明
2	①地域理学療法について(坂田)	地域における理学療法士の役割
3	①地域理学療法の歴史(中村)	地域理学療法の歴史(過去からの経緯)
4	①地域理学療法の今後(中村)	地域理学療法の今後(地域包括ケアシステム 求められるPT)
5	②③④病院から在宅へ(野長瀬)	病院から在宅へ向けて(看護連携について)
6	②③④病院から在宅へ(野長瀬)	病院から在宅へ向けて(福祉用具アドバイス)
7	②③④在宅生活について(岩谷)	在宅生活について(座位保持の考え方)
8	②③④シーティングについて(岩谷)	シーティングについて(安定した姿勢保持)
9	①②地域調査(坂田)	実習地or就職希望地域の人口動態の確認(J-stat)・就職希望地域の医療・介護資源の確認(Google map)・地域における役割の確認(HP)の調査
10	①②地域調査(坂田)	実習地or就職希望地域の人口動態の確認(J-stat)・就職希望地域の医療・介護資源の確認(Google map)・地域における役割の確認(HP)の調査
11	①②地域調査発表(坂田)	実習地or就職希望地域の課題および地域における役割を説明し、就職した場合、対象者のリハビリテーションを支援する業務内容は、どのような地域貢献に繋がるか説明する
12	③④事例検討(坂田)	ケアプラン・家屋評価・本人の様子を提示する
13	③④事例検討(坂田)	対象者への環境設定をこれまでの講義を活かして検討する
14	③④事例検討(坂田)	対象者への介入について検討する
15	①～④事例検討発表(坂田)	発表

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域福祉論				
担当者氏名	山本 繁樹				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期

《一般教育目標(GIO)》

地域在住の高齢者や障害児者への支援のために、地域福祉の概要、社会資源の活用、具体的援助論などについて理解する

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

随時紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 地域福祉の理念・内容などについて説明できる
2. 社会資源の活用方法について説明できる
3. 本人や家族への支援方法やケアマネジメント方法について説明できる

《学生の留意点》

講義のほか、受講生同士によるグループ討議演習など学生参加のもとに考察をすすめる。

《成績評価の方法》

課題レポート (100%)

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	地域福祉の理念・内容・推進方法	地域福祉の理念・内容・推進方法
2	社会資源の活用	社会資源の活用
3	家族に対する支援	家族に対する支援
4	ケアマネジメントの方法	ケアマネジメントの方法
5	地域福祉における相談援助事例研究	地域福祉における相談援助事例研究
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-A				
担当者氏名	藤川 明代、山形 哲行				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	4年・前期

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。
理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案できる
4. 治療プログラムを実施できる
5. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる
6. 記録・報告が行える
7. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習Ⅲ-B				
担当者氏名	藤川 明代、山形 哲行				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	4年・前期

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。

理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案できる
4. 治療プログラムを実施できる
5. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる
6. 記録・報告が行える
7. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		

夜 間 部 理学療法学科

1 学 年

科目名	基礎となる科目	基礎とした科目
基礎力養成講座		全科目
情報社会と情報リテラシー	基礎力養成講座	理学療法評価学Ⅰ, 理学療法評価学Ⅱ, 問題解決のための研究法
バイオメカニクス		運動学Ⅰ, 運動学Ⅱ, 理学療法評価学Ⅰ, 日常生活活動論, 運動学演習, 臨床運動学, 物理療法学, 日常生活活動論演習, 義肢装具学, 義肢装具学演習
医療コミュニケーション論		臨床見学実習, 臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
解剖学Ⅰ		生理学Ⅰ, 病理学概論, 運動学Ⅰ, 運動学Ⅱ, 理学療法評価学Ⅰ, 理学療法評価学Ⅱ, 整形外科, 運動器系理学療法学, 運動学演習
解剖学Ⅱ		生理学Ⅰ, 運動学Ⅰ, 運動学Ⅱ, 理学療法評価学Ⅰ, 理学療法評価学Ⅱ, 整形外科, 運動器系理学療法学, 運動学演習, 病理学概論, 臨床神経学, 中枢神経系理学療法学, 発達系理学療法学, 神経筋系理学療法学
生理学Ⅰ	解剖学	解剖学Ⅰa, 解剖学Ⅱ, 運動学Ⅰ, 運動学Ⅱ, 理学療法評価学Ⅱ, 臨床神経学, 運動学演習, 病理学概論, 中枢神経系理学療法学, 発達系理学療法学, 神経筋系理学療法学, 物理療法学
生理学Ⅱ	解剖学	運動学Ⅰ, 病理学概論, 臨床内科学, 運動学Ⅱ, 理学療法評価学Ⅱ, 物理療法学
人間発達学	解剖学	精神医学概論, 行動科学, 臨床心理学, 臨床内科学
臨床心理学	人間発達学	精神医学概論, 行動科学
リハビリテーション概論		理学療法概論, リハビリテーション医学, 日常生活活動論, 生活環境支援理学療法学, 現代社会と社会保障, 保健医療福祉連携論
理学療法概論	リハビリテーション概論	理学療法評価学Ⅰ, 理学療法評価学Ⅱ, 運動器系理学療法学, 中枢神経系理学療法学, 神経筋系理学療法学, 物理療法学, 生活環境支援理学療法学
理学療法演習Ⅰ	情報社会と情報リテラシー, 医療コミュニケーション論	臨床見学実習
フィジカルアセスメント	バイオメカニクス	理学療法評価学Ⅰ, 理学療法評価学Ⅱ, 理学療法評価学Ⅲ
生活環境支援理学療法学		地域理学療法学, 臨床実習Ⅱ, 臨床実習Ⅲ
臨床見学実習	リハビリテーション概論, 理学療法概論, 生活環境支援理学療法学	臨床実習Ⅰ, 臨床実習Ⅱ, 臨床実習Ⅲ

2 学 年

科目名	基礎となる科目	基礎とした科目
運動学Ⅱ	解剖学, 生理学 バイオメカニクス, 運動学Ⅰ	運動学演習, 臨床運動学 理学療法評価学, 各障害理学療法学
運動学演習	解剖学, 生理学, バイオメカニクス 運動学, 理学療法研究法, 運動療法学概論	臨床運動学, 各障害理学療法学 理学療法研究法演習
神経内科学	解剖学, 生理学, 病理学概論, 運動学Ⅰ	理学療法評価学Ⅱ, 脳血管障害理学療法学 発達障害理学療法学, 神経障害理学療法学 義肢装具学, 日常生活活動論演習
整形外科	解剖学, 生理学, 病理学概論	リハビリテーション医学 理学療法評価学Ⅰ, 運動器障害理学療法学 義肢装具学, 日常生活活動論 日常生活活動論演習
臨床医学（内科学）	解剖学, 生理学, 病理学概論	リハビリテーション医学 内部障害理学療法学
臨床医学（小児科学）	人間発達学, 解剖学, 生理学, 病理学概論	リハビリテーション医学 発達障害理学療法学
臨床医学（老年医学）	解剖学, 生理学, 病理学概論	リハビリテーション医学, 理学療法評価学 運動器障害理学療法学 内部障害理学療法学, 生活環境論 地域理学療法論, 社会福祉学
精神医学	臨床心理学, 人間発達学	臨床精神医学, 理学療法評価学
リハビリテーション医学	リハビリテーション概論, 臨床医学 整形外科	物理療法学, 義肢装具学, 理学療法評価学 各障害理学療法学, 理学療法概論Ⅱ
理学療法評価学Ⅰ	解剖学, 生理学, 医療情報学 バイオメカニクス, 運動学, 整形外科	運動学演習, 理学療法評価学Ⅱ 理学療法評価学演習, 物理療法学 各障害理学療法学
理学療法評価学Ⅱ	解剖学, 生理学, 医療情報学 運動学, 理学療法評価学Ⅰ, 神経内科学	理学療法評価学演習, 物理療法学 運動療法学技術論, 各障害理学療法学
運動療法学概論	理学療法概論Ⅰ	運動学演習, 理学療法評価学演習 物理療法学, 各障害理学療法学
運動器障害理学療法学	解剖学, 病理学概論, 整形外科 リハビリテーション医学, 臨床医学 理学療法評価学, 運動療法学概論	日常生活活動論, 日常生活活動論演習 理学療法評価学演習 運動療法学技術論, 物理療法学
日常生活活動論	リハビリテーション概論, 理学療法概論Ⅰ バイオメカニクス, 運動学Ⅰ 整形外科, 運動器障害理学療法学	臨床運動学, 理学療法評価学演習 各障害理学療法学, 日常生活活動論演習 生活環境論, 地域理学療法論, 臨床実習

3 学 年

科目名	基礎となる科目	基礎とした科目
臨床運動学	運動学, 運動学演習, 理学療法評価学	理学療法評価学演習, 運動療法学技術論 日常生活活動論演習, 各障害理学療法学 臨床実習
理学療法評価学演習	臨床医学, リハビリテーション医学 理学療法評価学, 運動療法学概論 運動療法学技術論, 各障害理学療法学 日常生活活動論, 物理療法学, 臨床運動学	臨床実習, 運動療法学特論
脳血管障害理学療法学	解剖学Ⅱ, 生理学Ⅰ リハビリテーション医学, 神経内科学 運動学, 理学療法評価学, 日常生活活動論	臨床運動学, 理学療法評価学演習 運動療法学技術論, 日常生活活動論演習 臨床実習
発達障害理学療法学	人間発達学, 解剖学Ⅱ, 生理学Ⅰ 神経内科学, リハビリテーション医学 運動学, 運動学演習, 理学療法評価学Ⅱ 日常生活活動論, 臨床運動学	理学療法評価学演習, 日常生活活動論演習 臨床実習
神経障害理学療法学	解剖学Ⅱ, 生理学Ⅰ, 運動学, 運動学演習 リハビリテーション医学, 神経内科学 理学療法評価学, 日常生活活動論 臨床実習Ⅰ	理学療法評価学演習, 日常生活活動論演習 臨床実習
物理療法学	生理学, バイオメカニクス リハビリテーション医学, 理学療法評価学 運動療法学概論, 運動器障害理学療法学	理学療法評価学演習, 臨床実習
日常生活活動論演習	バイオメカニクス 神経内科学, 整形外科, 日常生活活動論 臨床運動学, 各障害理学療法学	理学療法評価学演習, 臨床実習
義肢装具学	理学療法概論, リハビリテーション医学 神経内科学, 整形外科	理学療法評価学演習, 義肢装具学演習 臨床実習
義肢装具学演習	義肢装具学	臨床実習
内部障害理学療法学	臨床医学 (内科, 老年医学), 運動学 運動学演習, リハビリテーション医学 理学療法評価学, 運動療法学概論	理学療法評価学演習, 日常生活活動論演習 臨床実習
運動療法学技術論	臨床運動学, 理学療法評価学 理学療法評価学演習 運動器障害理学療法学	理学療法評価学演習, 運動療法学特論 臨床実習Ⅲ
生活環境論	リハビリテーション概論, 理学療法概論 日常生活活動論	社会福祉学, 地域理学療法論, 臨床実習
臨床実習Ⅰ	理学療法評価学Ⅰ, Ⅱ, 理学療法評価学演習	臨床実習Ⅱ
臨床実習Ⅱ	各理学療法評価学, 評価学演習, 臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅲ

4 学 年

科目名	基礎となる科目	基礎とした科目
行動科学	臨床心理学, 人間発達学	
統計学	理学療法研究法	理学療法研究法演習
理学療法概論Ⅱ	理学療法概論Ⅰ, リハビリテーション概論 リハビリテーション医学	
理学療法研究法演習	理学療法研究法, 運動学演習, 統計学	
運動療法学特論	理学療法学技術論, 各障害理学療法学	
社会福祉学	リハビリテーション概論, 理学療法概論 地域理学療法論	地域理学療法論
地域理学療法論	リハビリテーション概論, 理学療法概論 生活環境論	社会福祉学
地域福祉論	社会福祉学, リハビリテーション概論	
臨床実習Ⅲ-A・B	理学療法評価学演習, 各理学療法治療学, 臨床実習Ⅰ・Ⅱ	

